

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成**21**年**12**月**23**日



稔りの秋・烏帽子岳遠景

…… 郷愁を誘うふるさとの風景 ……

写真提供：広報部 武捨衛人

撮 影：2009.10.5

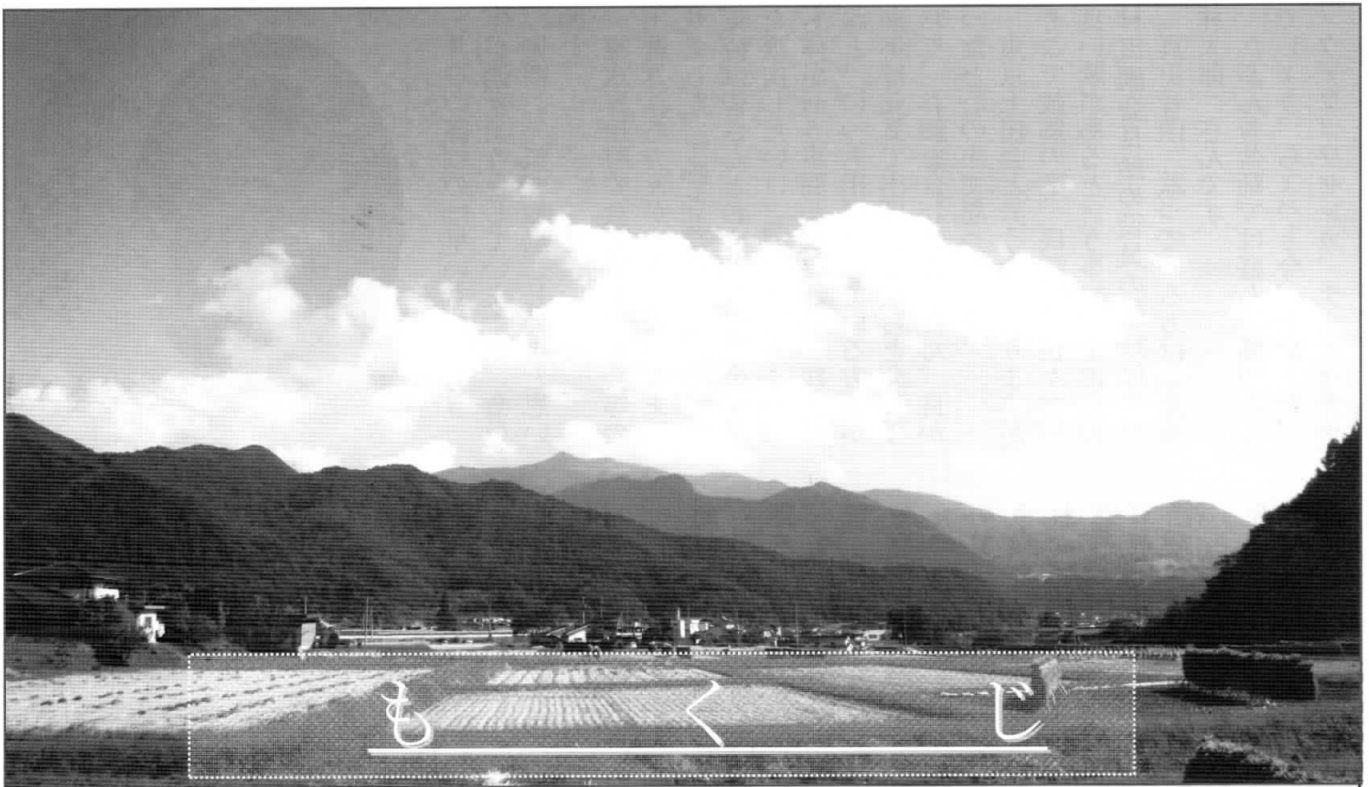
NO.

22

春爛漫のふるさと風景

写真撮影：編集部 武捨 衛人





一	表紙(稔りの秋・烏帽子岳遠景)	編集部	1
二	春爛漫のふるさと風景	編集部	2
三	もくじ	編集部	3
四	会長あいさつ	中島 正江	4
五	「揺籃期」から「成長・発展期」へ	母袋 創一	4
六	真田人気の今、		
七	ブームから定着を目指して	上田市議会議長 丸山 正明	5
八	真田氏発祥の郷として	上田市議会議長 笠原 茂正	6
九	「真田ブームに沸く上田」	上田市議会議員 清水 俊治	7
一〇	ますます魅力的な故郷づくりを	上田市議会議員 古市 順子	7
一一	忘れられない思い出	顧問(曲尾出身) 小林 孝雄	8
一二	望郷 四季折々	真田出身 荻原 學	9
一三	東京在住の十年	萩出身 柳澤 實	9
一四	「佐久二泊三日健康の旅」	中横道出身 石谷 彰治	10
一五	「上田軍記」のミステリー	顧問(中横道出身) 清水 清晴	10
一六	親睦ゴルフ大会に参加して	戸沢出身 柳沢 郁政	12
一七	はじめまして	横沢出身 椎名己津男	13
一八	新理事の堀内 政です	理事(竹室出身) 古市 礼子	13
一九	「カミイの里」に想う	理事(四日市出身) 堀内 政	15
二〇	親睦一泊旅行に参加して	東京上田会専務理事 宮島 光雄	15
二一	科学随想第三弾	菅平出身 川上 年美	15
二二	第二十二回総会・懇親会のご報告	理事(中組出身) 武捨 衛人	16
二三	各部の活動報告	副会長・事務局長 山口 元彦	17
二四	ふるさとのコーナー	各担当理事	19
二五	会員の皆様の近況報告抜粋	編集部	21
二六	会員消息・お知らせ等	事務局・編集部	22
二七	平成二十年度決算報告書	事務局	27
二八	平成二十一年度事業計画	事務局	27
二九	薄皮を剥ぐように想い出を誘う流行歌	編集部	28
三〇	編集後記	編集部	29
三一	ふるさとのあちらこちら	編集部	33
三二	掲載写真・投稿寄稿のお願い	編集部	34
三三	裏表紙(初秋の千古の滝・千古温泉)	編集部	36

会長 あいさつ

会長 中島 正江

(戸沢出身)



月日の経つのは早いもの、もう一年が過ぎようとしています、会員の皆様お元気で過ごしの事と思います。

東京真田町の会も年々、総会等の出席される方々が少なくなってきました。年齢と共に足腰の痛み等、気持は皆さんとお会いして田舎の話を楽しみたいけど、どうにもこうにも体が云う事聞かないわい、残念だねと、いつも出席されている方々が来年は元気で出席出来たらと念じており、お顔を合わせたたん、良かったと心の中で思っています。

東京上田会と云う会がありますが、そこで故郷の歌、民謡等、色々古い良い歌があると言う事で、上田会の村田副会長始め役員の皆様により「真田音頭」歌っている方は「東海林太郎」さんです。

たぶん昔盆踊では盛んに踊ったんでしよう、ちよつと今、ヤレヤレ、ソウデワゴワセンカ、チャチャチャ

と言うフレーズが思い出されて来ました。それを上田会「浅草ビューホテル」で会があり、そこで私なりの踊りで披露する事になり、「真田音頭」を踊らせて頂きました。とてもなつかしく思いました。今度は東京真田町の会で皆さんと一緒に踊りましょう。

今我が家、83才になる姉を引き取りました。大変ではありますが歳が離れているので私の知らない事、昔の田舎の暮し、おかいこかつていて、寝る所が狭い所だったねとか、山から畑から、桑をしょってくるのはとても大変だったよ、あんたはあまりそうゆう事がなくて良かったねとか、食べる物、色々田舎で食べた物、山のあけびや桑の実、すぐり、ぐみ、うつらうめ、柿等はなかなか食べられない時もあったねと、毎日のように思い出して話しています。毎日病院通いのつきそいですがそんな話をしながら過ごしております。

これからの世の中、お年寄りにも今迄一生懸命働いて来たので老後は幸福に暮らして行けるように思っています。

真田町の会でも色々計画しています。マレットゴルフやゴルフ、旅行会、元氣な内に皆さんで楽しませよう。旅行会はホテルからバスで迎えに来てくれます。バスの中でもとても話しがはずみます。宿に到着するまでは色んな所の観光もして行きます。今回は鹿教湯温泉でした。ご希望の方はいつも11月頃行きますので

「揺籃期」から「成長・発展期へ」

上田市長 母袋 創一



東京真田町の会の皆様のふるさとにお寄せいただいております温かいご支援やご協力に心より感謝申し上げます。

合併した新生上田市の市長として市政をお預かりしてから4年目を迎えました。合併からの3年間は「揺籃期」とし、「新市の一体感の醸成」と「上田の活力・魅力アップ」を心がけるとともに、旧4市町村の制度統一や国の制度改革により、市民の

私の方へご一報下さい。詳細をお知らせ致します。

これからも上田の色々な行事に重ね合わせて計画したいと思っています。今後とも東京真田町の会の運営に皆様のご支援をお願い致します。そして会員の皆様お元気で過ごして下さい。

皆さんに新たな負担をお願いする場合でも、合併のスケールメリットを活かしながら、市民の皆さんには可能な限り負担を軽減するよう施策を進めてまいりました。

また、市民の皆さんに合併して本当に良かったと実感していただけたよう旧4市町村の特色を引き継ぎ、活かしながらも10年、20年先を見据えた「上田新時代」の礎を築くよう市政経営に取り組んでまいりました。その結果、合併後も継続協議されてきた懸案事項はほぼ解決したり見通しも立ち、旧市町村間の垣根も除々に取り除かれてきたと感じています。新生上田市が次のステップへと踏み出す時期を迎え、今年は市の将来像を描いた第一次上田市総合計

画の実現に向けた施策を展開する「成長・発展期」へ移行した年と考えております。

具体的な取組の一部を紹介しますと、現在、上田駅近くのJ.T跡地に、「文化・交流施設」と「市民緑地広場」を中心とした施設整備の検討を進めています。8月には、文化・交流施設等整備検討委員会から「1700の席大ホール・300席の小ホール・美術館・交流ホール等からなる東信濃地域に広がる文化圏のシンボルとなるような施設」とする整備方針が報告され、市の「整備計画」をまとめる段階となりました。

また、産科など周産期医療の医師不足は、上田地域においても切実な問題です。上田市産院については、大学の医師派遣打ち切りによる閉院の危機もありましたが、安心して子どもを産み育てる環境に不可欠な医療機関として、その存続と移転改築を決断しました。10月には常勤産科医一名を迎えることができ、この課題に一筋の光明がさしてきました。

地域の魅力アップの取組みについては、上田市を舞台としたアニメ映画「サマーウォーズ」がこの夏に全国公開されました。「理想の田舎 信州上田」をアピールする絶好の機会と捉え、イメージ戦略を展開したところ、多くのファンが映画ゆかりの場所に訪れています。上田の知名度アップや、更なる地域の賑わいに繋

げていきます。

依然として経済の動向は失業率が高く厳しい状況にあり、またその時期に国では政権交代がありました。このような大きな転換期・厳しい経済情勢においても、この地域の未来を展望する中で誕生した「ふるさと上田」の目指す姿は「生活快適都市」の実現です。厳しい財政面に配慮しつつ、私の市政経営の基本である「生活者起点」、「市民第一主義」の理念を念頭に置いた施策を着実に進め、このような時だからこそ、上田市の万人の英知を結集し、時代を切り拓いていくことが大切と考えております。

おわりに、会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、会報「日本タボス」に寄せる挨拶といたします。



真田人気の今、ブームから定着を目指して

上田市議会議長 丸山 正明



「日本タボス」第二十二号の発行おめでとうございます。また、上田市議会議長として昨年に引き続き挨拶文を掲載させて頂く機会を頂戴いたしましたことに、光栄に感じており、まず厚く御礼申し上げます。

今年の夏は天候不順により暑い日が続かず夏らしさに欠ける感がありましたが、八月三十日の衆議院議員選挙において、二大政党が正面からぶつかり第一党が民主党に入れ替わるといふ戦後の政治史を画する熱い出来事で締めくくられました。

政権交代による影響が予想されていますが、「地域主権」への転換が政策の柱の一つに据えられており、地方の元気を取り戻すための見直しは今後行われ、変革の効果が一日も早く現れてくることを期待しております。

一方、変革とともに継続性も大切であり、市民生活に直結した地方行

政府は、市民生活支援のための待ったなしの対応が求められております。こうした点を踏まえ、上田市議会におきましては、九月議会で、緊急雇用・経済対策事業として既に地方自治体に振り向け、推進している事業の財源確保を求める「地域経済活性化施策の継続的推進を求める意見書」を全会一致で可決し国へ提出するなどしてまいりました。

皆様の故郷であります真田地域を含めました上田市の状況でございますが、合併から早や四年目も半ばを過ぎ、地域予算による特色ある地域づくりも進んでおります。また、本年の全市的対応の防災訓練が真田中学校の校庭で大々的に行われるなど、四地域のバランスを考慮しながら一体感の醸成が図られるよう様々な事業が進められているところです。

さて、このところ上田のまちは、歴史ブームの中で例年より賑やかなようであります。「歴女」と呼ばれる歴史好きの女子が、じわりじわりと訪れているようでもあります。

その背景として大河ドラマや戦国武将をテーマにしたゲームやアニメの影響が大きいとされていますが、

戦国武將に人気が集まり特に真田幸村に人気が集まっているとのこととあります。中高年には、時代の覇権を握った織田信長や豊臣秀吉、徳川家康などに人気がありますが、歴女の皆様には、その人物の心意気や生き様に感銘を受けた人が少なくないようでもあります。ある調査では戦国武將の人気投票の一番が真田幸村、二番が伊達政宗、三番が上杉謙信だそうです。豪勇の幸隆、鬼謀の昌幸そして義の幸村と個性派の三代が今の世を駆け巡っています。

私は今こうした真田人気を大変ありがたいことだと思いつつ同時にこれを逃す手はない、「ブームを生かしてこのチャンスに真田人気を定着させるべきだ」とこんな思いでおります。華々しく散った幸村には夢とロマンがあります。

真田氏関係の文化財・遺跡・関係施設をあげてみますと上田城・真田井戸を始め市立博物館、池波正太郎真田太平記館、大輪寺、真田氏館跡、真田氏歴史館、長谷寺、信綱寺などまだまだ多くありますが、なんといつても上田の城下町そのものが今に通じる真田時代の歴史的財産でもあります。また、神川合戦の地や沼田へ通じる上州への道、遠く姉妹都市の和歌山県九度山町へも思いは巡ります。

六文銭巡りの名称でもいいのですが、ウォーキングも取り入れながら

これらの場所を訪れていただく。そして泊まりは別所温泉・鹿教湯温泉など、翌日は塩田の里や菅平高原、美ヶ原高原へと足を延ばし散策していただく。このような案はいかがでしょうか。

故郷を遠く離れ東京で活躍されている皆様方には是非、真田の地を含めた新上田市の魅力を、ここぞとばかりにPRしていただけたら大変ありがたいとこのように考えておりますので、よろしくお願いいたします。いずれにいたしましても、議決機関としての議会も行政をチェックするだけでなく、上田市を思う皆様の思いを反映させ、「住んでよかった。訪れてよかった。」と実感できる上田市となりますよう議員一丸となってこれからも取り組んでまいる所存でありますので、ご意見をお寄せください。

この会報を通じ交流がさらに深まり、東京真田会が益々発展されますことをご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



真田氏発祥の

郷として

真田地域自治センター長
笠原 茂正

東京真田町の会の皆様には、益々ご健勝でご活躍のことと存じます。

この4月にセンター長として着任しました笠原茂正でございます。着任して半年、真田地域の多くの皆様との触れ合いを通じ、この地域で仕事ができることへの喜びとともに、その責任の重さを感じております。

着任早々の5月には、東京真田町の会総会に初めて出席させていただきましたところ、会員の皆様の温かい歓迎をいただきました。誠にありがとうございました。

さて、皆様ご承知のとおり、真田地域は真田氏発祥の郷として一族ゆかりの旧跡や名刹が数多く点在しています。昨今の戦国武將ブームによって、真田の郷には多くの真田ファンが観光に訪れ、歴女と呼ばれる若い女性たちが史跡を巡っている姿も見られるようになりました。

このような中、市のわがまち魅力アップ応援事業を活用して、初の『真田行列ウォーキング』が市民交流行列プロジェクト実行委員会（長谷寺住職 宮下委員長）により、約30

0人が参加して10月に開催されました。自治会長さん等が扮した真田六武將（幸隆公・信綱公・昌輝公・昌幸公・信之公・幸村公）と真田十勇士、一般の参加者は、騎馬隊を先頭に長谷寺を出発して上田城に向かいました。甲冑を着けての歩行は大変ご苦労をされたようですが、「真田一族の思い」は無事に上田城内の真田神社に届けられました。真田氏発祥の郷という他にはない地域資源を活かしたこの企画は、今後の地域活性化に向けた取組の第一歩になったのではないのでしょうか。



次に、真田地域の取組について紹介します。旧真田町の時代から住民が期待を寄せてきた真田図書館（仮称）を現在建設しています。場所は真田地域自治センター（旧真田町役場）の北側隣で、センター庁舎の一部を利用した構造です。地域の特性を活かした住民参加の図書館づくりにより、地域の文化交流やコミュニティ活動の拠点となる図書館が来年の秋には完成の予定です。

菅平高原では、各種のスポーツ合宿で賑っています。やはり菅平といえはラグビーが有名です。二〇一九年にはラグビーワールドカップの日本開催が決定しており、スポーツリゾート『世界の菅平』を目指した観光戦略を地元の皆さん進めてまいります。また、菅平の農業振興については、豊かな自然環境で生産される農産物の地域ブランド化を一層進め、持続的に魅力ある農業を目指した取り組みを進めてまいります。

新上田市では、地域の個性や特色を活かし、地域の力が発揮される地域内分権の確立を目標のひとつとして掲げています。それぞれの地域の活性化は、上田市全体の発展に繋がるとの思いから、真田の地にねむっている地域資源を掘り起こし、それを地域が元気になるためにどう活かせるのか。さらに、これからの地域を支える人材づくりの必要性から、地域で子どもたちを育てていくようなまちづくりを推進してまいりたいと考えています。東京真田町の会の皆様におかれましても、「ふるさと真田」のまちづくりにご助言をいただければ幸いです。

終わりに、東京真田町の会のご発展と会員の皆様のご多幸を心から御祈念申し上げます。

「真田ブームに

沸く上田」

上田市議会議員

清水 俊治



東京真田町の会の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶びを申し上げます。いつも温かい心で私達をお招きいただき、心より感謝を申し上げます。また「日本ダボス」第二十二号発行おめでとございます。月日の過ぎる早さをつくづくと感じる今日この頃でございます。

今上田では「真田」ブームに沸いております。NHKの大河ドラマ「風林火山」から「天地人」そして上田を舞台の映画「サマーウォーズ」が上田市内の映画館で上映されました。配給会社では5千人を目標にしましたが、結果的には8千5百人を上まわる集客数であったようです。

このアニメ映画には、上田を中心とした地名、風景が沢山出てまいります。全国的にも観客動員数が百万

人を超え、上映を続行したり、新規上映がされているところもあると聞いております。

また品の毎日新聞には「真田三代」の小説が火坂雅志先生の執筆により連載されておりまして、これも大好評であります。

それらのことがあつてか上田城跡はもとより、真田町の長谷寺、真田本城跡、お屋敷公園、信綱寺、そして真田歴史館への入場者が前年比で20%〜30%上まわっているのとこととであります。

上田市が直営する観光会館の売店の売上げも7月〜8月は40%を上まわる売上げを記録したとの説明でありました。観光ガイドを担当するボランティアの皆様も若い女性が多く、また専門的な質問に大変だともらしております。

地方の武将が自分の生き方に信念を貫き、麻のように乱れた社会の中を「快刀乱麻のように生きた」その生き方に多くの人々は魅了されて、その武将の生きて来た上田を是非観たいと訪れるのだと思います。

これからも生まれ故郷である、上田に東京真田町の会の皆様も多くお越しをいただき、真田一族の歴史、春は千本桜まつり、夏は真田夏まつりに、ゴルフや真田町内、真田幸村ロマンウォークに、そして秋の紅葉まつり、真田の里をどうぞごゆっくりと散策して下さい。

終りに皆様方のご健勝を心よりご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

ますます魅力的な 故郷づくりを

上田市議会議員

古市 順子



東京真田町の会の皆様には、お元気で過ごしていることと思います。5月の総会の折は大変お世話になりました。竹室出身の方を初め、多くの方と親しくお話をさせていただき楽しい一時でした。

今真田町は実りの秋を迎え、紅葉前線も菅平から下り始めました。久しぶりの台風到来にリングの落下など心配されましたが、真田地域は幸いにも被害がなくほっとしているところです。

「日本ダボス」21号には、「ふるさと風景」として、お屋敷公園、信綱寺、古城緑地広場、実相院の美しい紅葉が掲載されていて、皆様に

はなつかしい景色だと思えます。私も改めて魅力を感じました。今年はNHK大河ドラマや、信濃毎日新聞に「真田三代」という小説が連載されていることもあり、若い女性も含め多くの観光客が訪れています。

真田地域は真田氏発祥の郷として、歴史に培われた多くの資源があり、大切に後世に伝えるとともに、地域振興に活かすことがまちづくり方針となっています。観光資源の環境整備、果樹を初め地元農業との連携、公共交通整備等が課題です。行政と地域の皆さんが知恵を出し合っていくことが必要だと思います。合併によって設置された地域協議会では、まちづくり方針を実現するために、分科会で協議されています。行政も観光資源の洗い出しなど、積極的に取り組んでいます。ますます魅力的な故郷づくりに力を合わせたいと思います。

菅平高原は夏のスポーツ合宿が盛んですが、今年は新型インフルエンザの影響で、一億円以上のキャンセルがあったそうです。今は冬シーズンの準備中ですが、会員の皆様には、菅平高原のPRもお願いしたいと思っています。

上田市全体の大きな課題は、市民会館の移転改築を中心とした交流・文化施設整備です。総事業費の上限が135億円という上田市独自の大型事業です。このうち111億円は、

有利な起債といわれる合併特例債を充てる計画です。上田市には産院改築、ごみ焼却場建設、小中学校耐震化など多額の費用がかかる課題が山積しています。また維持管理費、借金返済等将来負担が心配されます。昨年から経済危機で市税収入も大幅な落ち込みが予想されるなかで、建設の是非や予算規模について多くの市民の意見を聞く必要があります。最後になりましたが、会員の皆様にはますますお元気で、ご活躍されますよう心からお祈り申し上げます。

忘れられない

想い出

顧問 小林 孝雄
(曲尾出身)



昨年(平成20年)10月26日、私の家内の先祖の墓がある徳島市で墓前祭があり、前日羽田から飛行機で徳島に着きました。尾道に住む家内の妹

夫婦と合流し、翌日午前墓前祭を終え、市内のホテルで昼食を共にしました。その時、久方ぶりの私共の訪問を歓迎し、尾道で子供、孫達が全員集まって夕食会の準備をしているとのことでした。そこで汽車の時間に合わせて、尾道の子供、孫達に徳島の土産物を買ひ、午後2時半頃徳島駅から高松行きの汽車に乗りました。私の持物は通常、黒い皮のバッグで、カメラ、手帳等細々としたものをに入れていきます。

尾道に行くためには、高松駅で岡山駅行きの「快速マリンライナー」に乗ると、一時間少々で到着し、岡山駅からJRの普通電車で二時間位で尾道に到着します。「快速マリンライナー」は、昭和63年4月10日に開通、瀬戸大橋を通るので絶景が見られ、評判の電車となっています。鉄道は32.4km、海峡部は9.4kmですが、海峡に架かる橋は、吊橋、斜張橋、トラス橋など六つの橋があり、これを総称して瀬戸大橋と呼ぶということ。電車はスマートで指定席となっており、乗り心地も大変良く、快適な旅が楽しめます。予定どおり岡山駅に到着し、重い土産物の袋を4人で分担して持ち、尾道行きの普通電車のプラットホームに行きました。午後4時半頃電車が到着し、4人がけの席が空いていましたので座り、四方山話に花を咲かせていました。

岡山駅を出てから一時間程過ぎた頃、未だ一時間もかかるので、トイレに行っておこうと思い、二輛先のトイレに行つて席に戻りました。その時、ふと何時も持っている黒いバッグが気になり、座席の周囲や網棚の上を見ましたが見当たりません。家内に聞いても知らないと言います。

多分トイレに持って行って、棚の上に置き忘れたと思い、直ぐに行つて見ましたがありませんでした。何処でどうなったのか記憶を辿っても思い出せません。こんな時一体どう行動すべきか、咄嗟に車掌に届けるべきだと判断し、電車の最後尾の車掌のところまで行つて事情を話しました。次の停車駅のアナウンス等で忙しそうでしたが、車掌は私の名前、どこから乗車したのか、バッグの身は何か等質問し、メモに取っていました。その時、バッグの中に帰りの新幹線の切符も入れられていたことを思い出し、しまったと思いました。だが、最早後の祭りで呆然自失の態度でした。親切な車掌は、「尾道まで未だ一時間程かかりますから、側の椅子にかけてお待ち下さい。これから必要なところに電話しますから。」と言つて直ぐに電話をかけ始めました。車掌は、私が「マリンライナー」に乗ったことに、何かヒントを得たようでした。

忘れっぽくなったと後悔の念にかられつつ待つこと5、6分、突然車

掌が「お客さん、バッグがありません。現在岡山駅の遺失物保管所で保管しているのですが、直ぐに次の電車で尾道駅迄届けてくれるそうです。」との話しに、一瞬何が起ったのか、嬉しさと驚きが交錯しました。車掌の説明によると、私が岡山駅で降りた時、「マリーンライナー」の座席にバッグを置き忘れており、それを車掌が見つけて遺失物として届けたということでした。車掌が自信をもって話してくれました。「マリーンライナーでは、今迄事故が起ったことはないんですよ。」ということでした。親切な車掌さんに厚く御礼を云って席に戻りました。心配していた家族達も漸く安心し、尾道では妹夫婦の子供、孫達と夕食会を行い、楽しい一時となりました。翌日は一日千光寺の秋景色を眺めたり、菊花展を見物し、夜は長年の旧友と会食し、翌日無事帰宅しました。

帰宅後早速JR西日本の社長さんに御礼状を書き、親切な車掌さんのことを詳しく報告しました。間もなくJR西日本より返書が届き、「車掌本人にも申し伝えましたところ、仕事の励みになりますと喜んでおりました。」と記されていました。人生は一瞬の不注意により、思わぬ結果をもたらすことになります。この想い出は、その良い教訓となっていますが、忘れられない記憶となっています。

以上

望郷 四季折々

真田出身 萩原 學



- 一、 故郷離れて 半世紀
望郷いまだ 衰えず
あの時あの頃 あの思い
記憶のままの 風物詩
静寂ギョツ々と 雪咬む音は
月光冴える 冬夜道
冷氣全身 肌をさす
寒月夜星 冴え々と
ポカカお陽様 降り注ぐ
屋根雪 解け水たたく
春の息吹が 日の増すごとに
季節ふしめの 別れ時
揺らめく灯籠 笛太鼓
夜宮の獅子舞 厳肅観いり
明けて浮き々 昼春祭り
祭りに添える 桜花
水鏡たる 田の面風情
燕はスイヤ 乱れ舞い
総出の田植え あちこちに
初夏の田仕事 大わらわ
我が世だ負けじと 蟬時雨

長 寿

萩出身 柳澤 實



我が国に於ける長寿社会の認識が定着して久しく、私自身現状を考えた時、この華奢な我が身の何処にこの様な生命力が潜むか不思議でならない。ここ数年は交通手段を要する外出はメッキリ減少、首都へのお出掛けも五指に納まる程、本当に田舎者と成り下がった。

又車中、我が白髪を認めし若者より席を譲られ、そのご好意有難く感謝で心温まる。我老いたり、されど過ぎし若き日に想いを致せば、心中の複雑さ極まりなし。過去を語る者既に老境なりと人の言う。他人は山谷の人生などと例えるが、我が身をそれに重ねれば、その殆んどは谷間、よくぞそれに耐えた、自身の努力を自負するに憚る何ものもない。私の生き方、信条は何ものにも阿ること

なく、又他を押し退けるを排すウオ基本に八十年、長い交わりの中で多くの仲間はそれを理解し容認して呉れる。

私は退職後、複数に亘る親睦教養を目的とした団体に参加、双手を開き我が入会を温かく迎え入れて呉れた各会。我が長寿の源ここに在り。各会の概略を記してみたい。

一、東京真田町の会

ふる里真田町より首都圏に移り住んだ仲間、会員数約六〇〇名、総会あり、旅行あり、その濃密さは他の追随を許さない。

本年の旅行を例に取れば、ハイライトは木曾義仲挙兵の地、それに隣する浄土宗知恩院末寺龍洞山宝蔵寺、あの大岸壁にそそり立つ姿は信仰の対象そのもの、一般の旅では考えも及ばないポイント、旅行幹事の配慮に唯脱帽。

第二部、夜の懇親会、その盛り上りは、会員は相互に融合し真田ことばも飛び交い、その楽しさを満喫したのは我のみに非ず、案じられし空模様も奇跡としか言えない、将に天の配剤、恵まれし旅に感謝、会員歴二十余年。

一、柏文化財ゼミナール

柏市が市民を対象に郷土史講座を開き、それを受講した。OB仲間約五十名、その仲間達が歴史を基本

に据えた学習を毎月二回、講師を招き受講、年間旅行も実施され、曾^カて私もこの仲間達を信州旅行に案内、真田町では、信綱寺、真田歴史館、そして他では無言館、北向観音、中山晋平記念館、高野辰之記念館、野沢温泉村ジャンプ台、穂高神社等、数年に亘り案内、会員からも好評を得た。会員歴二十余年。

一、能友会

能美防災(株)のOB会で会員数三百余名、年間行事は、新年会、総会、食事会、観劇会、現状厳しいサバイバルと言われる社会、その様な中で社員、OBを家族同様の厚遇、唯々有難い許りだ、新年会、総会の懇親会是最優先で参加する程魅力的、会員歴二十余年。

一、柏地区長野県人会

新年会のみ、会報発行も停止、活動も沈滞きみ、会員歴二十余年。

東京在住の十年

中横道出身 石谷 彰治

社命により、定年前十年間東京に住む事となった。

東京暮らしは学生時代四年間暮らし経験があるので始めてでは無いに

しる三十余年ぶりである。当時は都電が十五円で縦横に走っていた時分である。東京タワーも勿論なかった。新宿副都心や池袋・有楽町界隈は、まるで昨日の面影はない。地下鉄も都営浅草線・丸の内線の一部を除いてはなかった。



久しぶりに舞い戻るとそこは、もはや戦後ではない！というキャッチコピーそのものの東京であった。地下鉄東西線西船橋から飯田橋まで満員電車で揺られ、日がな一日、会社のオフィスでデスクワークが打ち合わせ会議が日課である。それまで大半をダム建設に携わって、緑濃い山奥で過ごして来た者にとって、しばらくは、都会の喧騒と窮屈さに苦痛の毎日であった。年老いた母や妻子は、郷里信州に置いての単身赴任である。

そうした素漠とした都会での一人暮らしのある日、小中学校同期の武捨衛人君から毎年東京真田町の会があるから一度出て見ないか？とお誘いがあった。早速市ヶ谷にある私学

会館に向いて見ると、大勢見知った人々がいるではないか。長年仕事柄各地を巡り歩いてきて、いつも言葉なまりの違うよそ者と自覚し続けてきた我が身を振り返り、ホッとする空間であった。

以来曲尾の小林孝雄さん・大庭の三井芳郎さんをはじめこの会を運営して下さっていた諸先輩の知遇を得ることとなった。以後、都会の孤独を感じる事もなく十年の時を大過なく過ごせたのも、この会による所が大きい。

いまは、郷里上田に戻ってかれこれ十年、妻と二人だけの穏やかな毎日だが、時折上京することもあるが、その都度、東京の変貌の凄まじさはまるで異国に踏み迷ったような錯覚にとらわれるが、ここには今も心暖かい郷里の人々がいることを思い懐かし、当時の日々を振り返る今日この頃である。

「佐久二泊三日

健康の旅」

(62連隊(チヤオン会)の戦友親睦旅行会 平成21年6月19日〜21日)

中横道出身 清水 清晴

昨年のチャオン会親睦旅行の際、佐久の依田武勝氏(9中)が世話人となり、山下会長と私が事務局を担当し、会員に通知した所、今年の参加者は12名で、昨年は23名でした。そこで今回で最後の戦友親睦旅行会にすることにしました。

このチャオン会の旅行は連隊本部各大隊付軍医初め衛生主計関係者(者)で、昭和48年8月に、長野県下高井郡山ノ内で行なわれた一泊二日の親睦会が始まりで、今年で何回目かな?



今年が最後の戦友会とあり老骨に鞭打って参加した。当日長野新幹線佐久平駅に午後1時集合で、東京方面から6名、高崎駅より1名、伊那市・岡谷市から5名が合流して宿舍クアハウスのバスで、第一日目の見学場所、佐久の龍岡城五稜廓へ、この五稜廓は北海道函館(の五稜郭)とともに二つしかない星型稜堡の洋式築城で66、694平方mで総工費4万円だそうです。

その次は田口新海三社神社へ、古

くから佐久郡三社三六郷の総社として尊敬を集めていた。社神は諏訪明神を主神とした三社で、広大な境内には樹齢数百年の杉林が茂り、東本社、西本社、中本社、神楽殿、拝殿、三重塔などがいらかを重ねて古式蒼然とした雰囲気があり、三重の塔は国の重要文化財に指定されているとのことでした。

次は前山洞源山貞祥寺へ

貞祥寺は、佐久地方きつての名刹で前山城主、伴野貞祥が叔父の節香徳忠禅師を招いて創建した。境内には明治三年、小海町松原湖の神光寺から移築した、三重の塔があり、寺院に参拝し境内を見学した。

昭和十九年太平洋戦争で、人間魚雷として活躍した回天の長野県回天会の碑があります。ここは何年前か忘れたが、真田町のふるさと訪問で三井顧問、大久保治夫氏と私で参拝した事がありました。

この碑は一番最初に出撃されたのが佐久市出身の、黒木博司少佐と仁科関夫少佐で同年十一月、回天特別攻撃隊として出撃された」と記されていた。

こんどは島崎藤村小諸塾、この貞祥寺の境内の木立に囲まれた閑静な場所であり、勉強するには最高の環境。拝観簿に署名し見学した。

クアハウスに向う途中で市営マレットゴルフ場の中を歩くと五、六人がプレイを楽しんでいた。十五分程

で宿舎に着き、大浴場で一日の汗を流す。

宴会は午後六時半からで、宴会には地元戦友さんが二人参加された。宴会に先立ち私が司会して、973名の戦死者及び物故者の冥福を祈る黙祷をお願いし、後の宴会の司会は山下会長とクアハウス社長の依田さんにお任せした。

6月20日午前10時、宿舍クアハウスを出発して峰雄山常源寺の見学へ、このお寺は、世話人の依田氏の先祖、相木市兵衛依田昌朝氏が永禄元年に建造されたお寺で、山門・衆寮・鐘楼などからなり、説明をして頂き参拝後、位牌堂に案内された床の間に相木市兵衛依田昌朝入道能登守常喜のお姿が安置されていた。

今度は山路を走ること約40分、標高1532m世界一の揚水式水力発電所ダムの見学、出力は270万KW、この地盤は秩父古成層で、発掘した土石がそのまま工事に使用できるのが特徴で、この白石の積み重ねの土手と四方の山並みの景色を満喫したが、広い休憩場所にはトイレ以外に何もなく、持参した弁当を食することも出来ずに下山した。

途中南相木村の公民館で昼食を取り、午後2時過ぎにクアハウスに帰る。3時半より14種類の浴槽巡りをし、最後は指導員つきで、バーデゾーンで水に首まで浸かり、手足の運動から腰徒歩と約1時間半、疲れた

がなんとなく体が軽くなったような気がした。

二晩目の宴会時「これが最後の親睦旅行会です」と発言したところ、参加の皆さんが元気で、来年の10月又ここで、今度は紅葉見物にしようと言う提案があり、全員賛成で決定した。

21日は9時より、音楽を通じて平和の尊さを伝える活動をされている音楽家松本市の狭間壮先生・ゆか先生ご夫妻をお招きして、62連隊記念音楽会「平和の鐘を鳴らそう」を開催した。

これは歌とおしゃべりの会で、戦争を体験した私たちの話で、戦争を知らない現代の人達が平和の尊さをかみしめ、再び戦争の犠牲者を出さないようにして貰う事が目的でした。

先生は戦時中の一本のエンピツから鉄製品の供出の話や、長野県上水内郡信濃町古間の称名寺の釣鐘が供出され、いまでもその鐘楼に大きな石の釣鐘があり、ここの住職さんは世界が平和にならない限り、この石の釣鐘は絶対に降ろさないと云っている話をスライドを交えて話されました。

会の途中では参加者全員による「春がきた」「里の秋」「ふるさと」の歌があり、当方からは明号作戦・越明作戦・南支那国境戦で九死に一生を得た話などが紹介され、時の経つのも忘れる盛り上がりだった。

昼食後宿舍のバスで長野新幹線佐久平駅まで送って頂き「来年の10月又会いましょう」と再会を約し解散した。

後日、伊那市の戦友丸山さん(91歳)より、こんな便りが届きました。「私にとつて初めてのコース佐久で、見学場所は勿論のこと、なか日の温泉浴運動・最後の日の狭間先生ご夫妻をお招きしての音楽会、旅の中の行事としては新鮮そのもので、事務局並びに世話人様のご尽力の賜物と感謝します。」

また毎回出席されている岡谷市の林アイ子様からは「佐久は遠い所と思っていたが、和田峠から2時間、本当に歴史の勉強をさせていだき、大理石の湖など想像つきませんでした。現代の社会をみつめなおしました。でも戦争だけは永久に嫌です、早く世界平和が来るよう祈らずにはいられません。」とお便りを頂き事務局としてホットしました。

佐久市には、宇宙空間観測所の直径64Mの大きなパラボナアンテナや、日本一、海から遠い地点114、853Mという所もあり、ここを訪れると佐久市発行の「認定証」が頂けるとか、また、テレビで全国的に有名になった、ぴんころ長寿地藏さんが、残念ながら時間がなく見学できませんでした。

(2009年8月15日の読売新聞の夕刊に *平和の音色をもう一度

の見出しで長野県信濃町の称名寺の石の釣鐘の記事が写真入りで報道されました。)

「上田軍記」の

ミステリー

戸沢出身 柳沢 郁政



最近、若い人たちに歴史ファンが多くなり真田一族は人気のようです。「歴史街道」なる雑誌が有り、昨年11月に真田昌幸を特集したのに、今年7月には幸村を特集していて、また売れるから不思議な事です。上田城は常勝の城で真田軍の情報収集戦略戦術は戦国時代において際だつていて、歴史ファンならずともたまらない魅力が多々有るのでしょう。私もそのファンの一人ですが建築の仕事をしていて地方へ出張した時など当地の城跡公園や博物館を良く訪ねました。城郭の石垣を眺めて構えや工法を推測し、実際に戦闘が行な

われた城では、想像つきないものがあります。

2006年の当誌で「上田軍記」の現代語訳が堀内泰さんによって出版されたとの紹介が有りました。さつそく書店で手に入れる事が出来、繰り返し興味深く読んでおります。博物館で触れる古文書は読解しがた、この現代語訳は本当の史実にふれる事が出来て、また古文原文も添付されているので感謝しています。

軍記には「神川合戦の事」として昌幸、信幸、幸村の親子と郷民が総掛けりで徳川軍を迎え討った事が書かれていきます。1585年8月2日始まった一次上田合戦は沼田の領地支配で北条家との話がこじれ、真田昌幸と徳川家康との戦いに成ったのでした。徳川軍7000人に対し真田軍2000人で対戦して、結果は徳川軍の死者1300人に対し真田軍の死者は40人で完勝だったと言います。いったいどのような戦いだったろうかと、卓上に上田附近地図を広げて「軍記」を片手にして図戦を試みました。

上田城は北に太郎山を背負い、南西は千曲川がふさいでいます。東に神川が有り、真田軍はそこに防衛線を張っているが、徳川軍は小諸に布陣して、北国街道沿いに川を渡り国分寺附近に進出ししている。信幸、幸村隊は敵勢と黒坪村で競り合い引き下がり、城まで誘い込みます。そ

のとき、城で待ち受けた昌幸が采配を取って討って出て、信幸、幸村隊が町屋に火を掛けたのです。折からの風が烈しく吹き、火が四方に飛び散るところへ牛を放したと言う。さらに四方の山谷の林中に伏せておいた郷民は、太鼓の合図で後陣へ討って掛かった。町中へ攻め入る時は容易だった千鳥掛が逃げるのに邪魔になり、進退が出来ず徳川の大勢は討ち滅ぼされたのです。火災と大打撃を受けた徳川残兵が退却し神川を渡ろうした時、真田軍が追い討ちを掛けました。「上田軍記」には、「折から神川の水がおびただしく増し、敵兵の半分以上がおぼれてしまった」とあります。

さて、この軍記のミステリーはこの記述です。上流にどのようにして貯水し、川を渡る敵勢力に合図で一度に放流が出来たのでしょうか。私は子供の頃、夏に神川で良く遊んだので知っていますが、8月は渇水期です。当時の治水工法に「武田堤」が有りますが、これは丸太を三脚に組み石を乗せるもので一気に崩せません。俵の土のうを積むのも考えましたが、水は漏れ、菅平ダムを放流する様な訳には行かないのです。この軍記は合戦の148年程後に書かれた様ですが、この部分は少し誇張されたのではないのでしょうか。上田城は神川の防衛線は弱いと以前から思っていました。他に作戦が

有ったのではないのでしょうか。

そこで思い当たるのは吉田堰(せぎ)と大屋附近の棚田の存在です。

この用水路は神川の戸沢で取水し石舟、荒井、下原、矢沢と流れ中吉田まで至ります。真田町誌によると12世紀前半には開発されていたと言われ、合戦時には存在していたものです。吉田には大きい貯水池が有ります。水門を開ければ、山側と千曲川との間隔がもつとも狭い大屋附近の棚田と街道に水を張るのは容易に出来たと考えられます。ぬかるみが出来、はまった敵兵を山林の中から、郷民と共に鉄砲、弓矢を放つたに違いないありません。真田軍はこの棚田と神川で増援部隊を絶ち、城内で、町屋の火災、国分寺付近、棚田とで大軍を分散させて撃滅したのではないのでしょうか。

この棚田の戦法を立証する資料が無いと、真田井戸は抜け穴だったと言う俗説と同じで終わってしまします。しかし立証の手がかりとして、棚田戦法と酷似する戦法の存在を指摘することが出来ます。例えば、上杉軍が徳川軍を湿地に誘いこみ戦った史跡が白河に有ると言います。また真田幸村が大阪「冬の陣」で徳川勢とみたび戦っていますが、棚田をうかがわす戦法を使っているのです。幸村は大阪城で弱点と言われた南側に真田丸を築き徳川勢を退けました。大阪市が最近その史跡を発掘調査し

たところ、堀は「畝状堅堀」で強固なもので有ったと言います。これは空堀の中に棚田状に畝(あぜ)で仕切り底に水を張るもので、畝の高さは人の丈ほど有ったのです。敵兵は堀を突破しようとしてもぬかるみに滑り、畝に登ると鉄砲、弓矢の攻撃にさらされ堀底にみな倒れたと想像できます。関が原の戦いの時、徳川秀忠軍に上田城で対抗した事から昌幸、幸村は九度山に14年もの間、蟄居されました。その間、幸村は昌幸と徳川を討つ秘策を練っていたが上田合戦の棚田戦法を再び大阪城にめぐらす事で有ったと思われます。そして幸村は、この作戦をひっそり大阪へ入城して父の分まで奮戦し、真田の武名を轟かせたのでは無いのでしょうか。

東京真田町の会

親睦ゴルフ大会に

参加して

横浜出身 椎名 己津男



立冬も過ぎた十一月十日、役員様方のご苦勞により晴天に恵まれた絶好のコンディションで開催されました。今年は当初十月に予定されておりましたが、生憎台風十八号の来襲によりこの日に延期となりました。出席者は十名と少な目ではありましたが、楽しい一日でした。

私は今回、同級生真田の武田氏の紹介での初参加です。成績は皆さんと比較してとても満足出来得るものではないと思いましたが、新ペリアほうしきのハンデに恵まれ、何と優勝とのこと、自分でびっくり、緒先輩方に申し訳ないやら、困惑するのとしきり、準優勝武捨衛人さん、三位堀内 政さんという結果でした。和氣藹々と方言を交えての談笑にとほんとに楽しい一日を過ごさせて頂きました。

私は昨年十一月に急病で緊急入院を余儀なくされ、ゴルフも運動も禁止され今春四月やつと解禁となり、今日に至りました。この時期にたまたま家の近くにゴルフスクールが開校され、健康と美容(?)にとの目的で全くゴルフは素人の女房を巻き込み、夫婦共通の趣味を持つ意味合いも込めレッスンに励んできた結果、女神が微笑んでくれたのでしょうか? 次回もう少し多くの方々に参加していただき、楽しい一日を過ごされまます様に楽しみにして居ります。私は現在栢市に在住しております。

出身は長横沢です。松尾古城跡の麓で生を受け、角間川の産湯に浸かり農家の三男として育ち、東京へ出て五十年になります。十年程前にJR(国鉄)を定年退職し、現在家庭菜園を楽しみ、在職中は出来なかつた町の手伝いやボランティア活動にと忙しい日々を過ごしております。

社会・人様を大切に、家庭と自分を大切にをモットーに充実した一日一日を築く様努力しております。

田舎には年二、三回は帰り、真田町の新鮮な空気を胸一杯吸って帰るのを何よりの楽しみにしております。最後に東京真田町の会の皆様に健康で元気に多くの方々にお逢いできますことを楽しみにしております。

はじめまして

理事 古市 礼子

(竹室出身)



東京真田町の会のみなさまはじめまして 本原 竹室出身の古市礼子と申します。何年か前、先輩から東

京真田町会にお誘いいただき、今年は、理事にと推薦いただきました新参者です。

仕事ですが、夫と渋谷区内でALIVEという会社を営み、心身ともに健康にイキイキ生きてゆく事をテーマにサプリメントを扱う仕事とテレビ番組の企画・制作をしております。

東京真田町会に入れて頂いた心のきつかけについて少しお話ししたいと思います。

2000年にチエルノブイリ原発事故の被災者のドキュメンタリー番組を制作しました。主人公は、ナターシャ・グジーという20歳の歌手で事故当時は6歳だったのですが、彼女が生まれ育ったブリピヤチという街は、事故以来汚染で人が住めない所になっていました。永遠に故郷を失ったのです。

街の人々は避難をしたまま、すでに16年が経過し、20歳のナターシャは「悲劇を忘れないで」と音楽を通じて訴えていました。取材で、歌や話を聞きながら、彼女と一緒に過ごしました。ただ、だまって楽器の練習をみていた事もあります。

そうして、傍にいます不思議なことに、彼女の中の故郷を失った哀しみ、ヒシヒシと伝わって来るのです。彼女は美しい歌を聞かせてくれました。故郷ウクライナの歌曲です。企画から取材期間を経ておよそ、一

年後に放送しました。

この番組制作は、さまざまな事を考える契機になりましたが、私自身の故郷を考えるようにもなりました。

真田町の空気や雲、雑草、道、ネコ。小学校の図書館。りんご。夕方の山の色、お風呂場のガラス。．．．いくらか出てきますね。今、知人に「わたしが子どもだった頃の真田町の蚩狩り」なんていう話をしますと「蚩狩りイロー？！」と驚かれます。私「つかまえた蚩を、葱坊主の中に入れると素晴らしい灯りになるの。」知人「えーっ。まるで（アルプスの少女）ハイジの様な子どもじゃない？」そういえば、そういう面はあったかも。「扁桃腺が弱かったの、その地域に生えていたある草を手首につけて治したのよ。」「へえーっ！ それって、薬草よね。」

「そう、いろいろな薬草が生えていて大人達は、よく知っていた。」「ステキーー。」といった具合で盛り上がりします。

でも、ナターシャ・グジーの美しい歌声を聞くまで、私は極端に申しますと「過去の出来事はサッサと忘れ、先の事を考える」という意識で暮らしておりました。ナニカ違うな、と思いました。私の中身はホントは、故郷で育まれたもので満たされていて、それを基にして、物を見ているし、その上から何かが積み重なっているのに、それを意識しなかつ

ただけだったなあ、と気づかされました。

私の「常識」の多くは真田町で培われたものなのかもしれないですね。そう思った頃、先輩から東京真田町の会のことを聞きました。

総会に出席し、関東にこんなにも大勢の真田町出身の方々が頑張っておられたのだと驚きました。知らない人なのに、知っているような暖かさや親しみがありません。私が真田中学にいた頃の方々に、早く会ってみたいと楽しみにしています。

どこで取材をしていますが、私は真田町の風土とか何かそういったものと無意識に結びつけて感じたり比較したりしているのだと思う事があります。どこかで、ビビッと反応するんです。こんな風に。フィンランドとスウェーデンの北の方の北極圏にサーミという人たちが住んでいて、会いに行きました。ヨーロッパの先住民です。北極圏ですから、冬に行くと寒いですが、でも、スカッとする寒さで真田町の冬と似ている感じがして平気です。木の板でスキーを始めた人たちだそうなんです。しかも、あたりには白樺の木。どうですか？

ところが全く違う事があるのです。そこは一日中、太陽が夕暮れのように地平線と山に見え隠れしているのです。太陽が東から昇って西に沈むというの、私の中の常識の中の常識です。なのに！それが常識ではな

かったのです。

それも愉快ですね。一日中、夕日！！この貴重な時間を逃してなるものか、と、移動しながら、金色の雲や逆光の山をズツと撮影していました。エルクやトナカイが時々道を横切ります。注意。注意。余りにも熱心に撮影するものですからドライバーに言われました。「日本には太陽がないのかい？」ハハハ。

小学校や、家庭を訪問しました。夜オーロラを見ながら唄を聞かせてもらったのですが、その時、わざわざ民族衣装を着てくれました。着替えを待つ間、サーミの女性が「今は、時々しか着ないのよ。」と言いました。サーミの方々は、自分たちの言葉や文化をきちんと残そうと努力しておられました。私は自分の生活をふりかえって、突然祖母が着ていた服装を思い出しました。「ああ、大変。私は日本の着物を自分で着る事ができないんですよ。」その女性はビックリしていました。「ホントですか？」はい。

日本に帰ってから、時々、着物を着るようになりました。まだ、どなたかに着付けて頂いていますけれど。何が大切で、何が大切ではないか？何を残して、何を捨てれば良いのか？バランスを考えることが大事だと思っています。

新理事の堀内 政です 宜しく願います

理事 堀内 政
(四日市出身)



今般、ゴルフ担当理事年として就任しました(株)真田不動産の堀内政です。

ゴルフプレイは自己責任のスポーツなので、これからも真田町ゴルフ同好会を楽しいものにしていきたいと思っています。同好会を通じて一時でも皆様方と一緒に信濃路の懐かしい思い出探しをしたいと思っています。今後とも宜しくお願いします。

「カムイの里」に想う

東京上田会専務理事

宮島 光男

(横尾出身)

▼ 走馬灯のように

小学校に入る前の幼い頃の写真がたった1枚しか残っていない。セピア色のその写真で、国民服みたいな

服を着て、長靴を履き、従兄弟たちと伯母を囲んで神妙な顔で突っ立っている。多分、昭和19年秋、稲刈りを終えて一同で記念に撮ったものだろう。ズボンには跳ねた泥がつき、庭先に箕や稲刈り鎌が転がっている。この写真が、真田町・横尾の伯母の家に幼児疎開していたときのただひとつの思い出の写真であり、そこから真田の里への「想い」が走馬灯のように甦ってくるのである。

▼ お蚕さんの子守唄

父が神川、母が殿城の出で、隅田川に近い東京・本所に住んでいた一家は、父の死後、昭和20年3月の東京大空襲で家が丸焼けになり、着の身着のままで信州へ逃げてきた。私はその1年ほど前に横尾の伯母の家に幼児疎開していた。伯母の家には男三人、女五人の従兄弟がおり、下の3人は3つ上の従姉を先頭にほぼ同じ年頃。食事となれば大皿に出された煮物や野菜を奪い合うようにして食べたものだった。小学校3年生の3つ上の従姉がなにかと気を配ってくれるのがうれしく、甘えていたような気がする。

近くのお宮の下を流れてくる前の小川で顔や手を洗い、隣近所の荒っぽい年上の男子たちの後をいつも追っかけていた。夜は庭先にある便所へ行くのが怖かった。寝るのは2階の蚕室で、初夏の頃か、お蚕さんの「グシユグシユ、グシユグシユ」と

桑の葉を食べる音を、いつの間にか子守唄のように聞きながら寝入っていた。

引き揚げてきた母は間もなく殿城の実家近くに間借りし、私は小学校に入る直前に伯母の家から引越した。何もない小さな部屋へ移るより、賑やかな伯母の家の方が居心地もよく、わがままを言ったらしく、母が平手で私の顔を張り、悲しそうな眼をしたことだけが鮮明に残っている。

▼ 「カムイ伝」の「原点」

最近になって、劇画「カムイ伝」の作者、白戸三平氏が同じ時期に横尾に住んでいたことを知った。文芸春秋10月号で、映画監督崔洋一氏、法政大教授田中優子氏との鼎談で白戸氏は山里真田の生活が自分の作品に大きく反映していることを語っている。60年安保闘争が挫折に終わり、巣鴨の下宿でやや自堕落な暮らしをしていた頃、大塚の貸し本屋でめぐり合ったのが白戸三平の「忍者武芸帳」だったか。そのころは「原点」が真田の自然や風物にあったとも知らず、むさぼるように読みふけたのだが「忍者武芸帳」や「カムイ伝」に登場する山里の描写が、私の中にあった幼い頃の原体験を自然に刺激してくれていたのかもしれない。

上田丸子電鉄真田線の北本原駅から神川を渡って歩いていった道、傍陽線横尾駅から千古温泉へ下る道と

反対に田んぼのあぜ伝いに歩いた道。そのあたりが今は真田温泉になったりしてすっかり変わってしまったが、それでもときに昔の面影を捜し求めて、変わらぬ自然を懐かしく眺めるふるさとである。

親睦一泊旅行に

参加して

菅平出身 川上 年美



久しぶりの親睦一泊旅行に行かせて頂き、とても楽しく過ごした二日間でした。

一日目はまず小諸でした。最初にワイナリー見学で香り豊かなワインを試飲で楽しんだ後、紅葉の懐古園に向かい、昼食を「草笛本店」で取りました。蕎麦の味は評判どおりで素晴らしい、ボリュームたっぷりでした。

食後、何十年ぶりの懐古園を散策し、昔の思い出に浸ることが出来ま

した。また菊花展で見た大輪の菊の色合いが信州の清涼な空気の故か、言い表せない美しさでした。

丸子の岩谷観音を経由して宿の鹿教湯温泉に向うバスの中では運転手さんが色々親切なガイドをして下さり大変勉強になりました。

二日目は最初に日本の中心と言われている「生島足島神社」に立ち寄りました。池面に映る鮮やかな紅色の社殿が見事でした。

続いて別所温泉に向かい、北向観音、安楽寺、常楽寺を回って、「信州の鎌倉」塩田平で「前山寺」の国の重要文化財「三重の塔」を見てから、「童光院」の風味豊かな《山菜膳》の昼食を美味しく頂きました。

紅葉映える信濃路を気心知れた仲間だけの貸切りバスで巡り、飛び交うふるさとことばを堪能し、夜は「湯けむりの宿」でカラオケを楽しんだ二日間の親睦旅行でした。

幹事さん、素晴らしい企画を有難うございました。また二日間のお世話役御苦労様でした。



科学随想第三弾

理事 武捨 衛人
(中組出身)



紅顔の美少年だった？ 傍陽中学生時代に書いた ☆雪と岩石 (科学随想第一弾)、その頃から科学技術に興味を持ち続けて55年、古希目前の5年前に、日本タボス第16号に投稿した第二弾 ☆ミトコンドリア様・葉緑体様、本当にお世話になつています…生命体は持ちつ持たれつ…

に続く ☆科学随想第三弾 を年寄りの冷や水で書いてみました。暇つぶしにお楽しみ頂きたいと思います。

☆ 仲良くしよう！我ら地球の生命体はすべて同じ祖先に連なる仲間です…人類はもちろん、あらゆる動物、植物が…さらに細菌、ウイルスまでも

太陽系が誕生してから46億年、この間に地球上には数限りない生命体が出現し、絶滅していききました。有名な恐竜や世にも不思議な五つ目のオパビニア等々——現存する生命体

の種類は確認されているのが約150万種で未確認分を含めると3、000万〜1億種位といわれています。それでも今までに出現した全生命体の1%以下の由です。

ところでこの生命体のすべて—肉眼では見えないウイルスや単細胞生物の細菌からきのこなどの菌類、梅や松、米、野菜等の植物、人、トンボ、魚などの動物—の生命体としての営みの最も基本的な部分が全く同じ仕組みになっていることが明らかにされています。

生命の営みの特徴である細胞の増殖や維持に必要なたん白質の造り方、合成の開始や中止の指令などの全ての手順が、細胞核やウイルスに存在する核酸(生命体に存在する高分子化合物でDNAとRNAがある)の中に含まれているわずか4種類の塩基(Nを含む簡単な化合物)の並び方で定められていると云うのです。もっとも、一個の細胞核に存在するこれらの塩基の数はヒトでは30億対、60億個におよぶとのことですが…

無数の選択肢が考えられる中で、ただ一つの仕組みが全生命体に普遍していることや、大部分の生命体はそのエネルギー源として、細胞に存在するミトコンドリアの作り出すエネルギー通貨の「ATP」に全面的に依存している事、さらに生命体の重要な構成成分のたん白質がわずか

に20種類の簡単なアミノ酸から出来ている事実などから、地球上に現存する生命体の全てが約35億年前に出現した、ただ一種類の生命体を起源としている証拠と考えられています。したがって、地球上に現存する全ての生命体は皆同じ祖先に連なる一族で、共存共栄を図るべき仲間ということになります。

☆ 卵が先か、にわとりが先か？—生命体の象徴の核酸と酵素、先に出現したのは？—生命の営みの全ての手順は核酸の中の塩基の配列で書かれています。が、核酸の生成には酵素が不可欠です。でも酵素の生成の仕組みは核酸に記録されているのです…

このように生命体の営みの仕組みは核酸の化学構造に組み込まれて記録されていて、このマニュアルに従って生命活動は営まれているのです。が、その中核をなすたん白質や核酸の生体内生成は、酵素の触媒作用の助けを借りて初めて出来ることなのです。

酵素の触媒作用がなければ、生命体構成物質の合成は生命体には耐えられない過酷な条件下ではじめて可能となる由です。たとえば鉄などの金属を簡単に溶かしてしまうような強い酸性条件や、逆に体を構成するたん白質が簡単に変質するような強いアルカリ性条件(21頁第四段目につづく)

第二十二回総会・懇親会のご報告

副会長・事務局長山口元彦
(横沢 出身)



一 五月二十四日、アルカディア市ヶ谷六階「伊吹」の間で、第二十二回総会・懇親会が開かれました。あいにく雨でしたが、会員五十七名、上田から石黒副市長、丸山議長、清水・古市両議員、笠原真田地域自治センター長各位を含む七名、東京上田会から森会長と宮島専務理事の皆様が出席されました。

二 「信濃の国」を斉唱して気分が盛り上がったところで、総会の部が始まりました。

【中島正江会長の挨拶要旨】インフルエンザがはやる中を、皆様お元気で御出席いただきありがとうございます。上田は、冬のスキーも春の新芽も素晴らしいので、四季折々にいらしてください。総会に出席できない方がふえています。会報は送ってください」という方が多く、広報に載った実相院の写真を見て「なつかしい」と嬉しい便りをいただきました。

した。健康でこの場に來られることが幸せだと思います。旅行その他の行事にも参加して盛り上げてください。また、東京に來ている甥御さん、姪御さんを御紹介下さるようお願いいたします。マーズナイ、みんな元気でよかったです、また会いなすな。

【上田市の石黒豊副市長の挨拶要旨】合併して四年目に入り、とんだ経済状況になりましたが、それだからこそいっそう頑張っています。上田城千本桜には三十八万人もの人が訪れ、高遠を追い越しました。真田地域では、念願の図書館が来年度中には完成する予定です。『世界の菅平』を目指してインターネットも活用する取組みが進んでいます。長野病院でお産ができるように、医師と助産師を確保する努力をしておりますので、お心当たりの方がいらしたらご紹介ください。ヤフーの戦国武将の投票で真田幸村が日本一になりましたし、上田が舞台のアニメも全国でロードショーが行われますので、このような知名度を生かしたいと思っています。みなさまもぜひ上田市に來てください。

【議事】会務報告・決算報告・事業計画・予算案のほか、役員補充につ



いても原案通りに承認されました。
三 懇親会では、歓迎の挨拶、来賓紹介、来賓祝辞の後乾杯をし、食事をしながらの懇談やかくし芸などを楽しみました。

【三井芳郎顧問の歓迎の挨拶】御来賓の方々並びに会員の皆さま、雨の中をおいで下さりありがとうございます。大変な不況の中ですが、今日の懇親会は盛大にやってください。

【丸山正明上田市議会議長の祝辞】ふるさとを離れて活躍しておられる皆様に敬意を表します。上田城を築いた真田昌幸は真田の出なので、真田町は上田市の本家のようなものですし、旧上田市は真田町からおいしい水の供給を受けており、たいそう親しい関係にあります。大不況の中ですが、何とかして生きていかなければなりません。営業所、出張所などの開設を検討しておられる方がおられたら、上田市に紹介してください。

【森浩一東京上田会会長の祝辞】私は塩田の出身ですが、父も私も、またこの冬には娘夫婦や孫たちも、菅平でスキーをしました。今後も菅平が発展することを祈ります。真田町の会が「日本ダボス」という素晴らしい会報を作っていることに敬意を表します。今後、上田、真田、丸子、武石の方たちと一緒にやれることを見出していきたいと思っています。



【柳澤喜三郎会員の乾杯の音頭】このような場で挨拶をするのはショウウシイが、年とればズナクなるから、なんとかやってミルカ。大政奉還の会議でさまざまな方言のため話がまとまらず、候文でやってまとめたそうです。私はこの会に二十一回目の出席で、ここに出てくると元気になります。今日ご出席の方々の元気に敬意を表します。

四 食べ、飲み、しゃべるうちに楽しく芸大会が始まり、今年も大勢の方々が出演されました。しかし、報告者（私）もグラスを片手に会場を回りしながら懇親と酔いを深めていましたので、その間の出来事については報告不能で申しわけございません。

今年も、上田市からお土産にいただいた真田町の特産品をじゃんけんを取りあったり、恒例の「真田郷」輪踊り（らしきもの）や「ふるさと」の斉唱もして、楽しく過ごしました。二年続けて雨に見舞われましたが、元気良く解散し、来年が楽しみだねと言いつけながら、家路についたり二次会に向かったりしました。



各部の活動報告

☆ 親睦旅行

期日：21年11月1日～2日

参加者：男11・女6・計17人

行程：1日目 大宮駅西口大宮ソニックビル パレスホテル1階入口前（9：00）～圏央道（川島IC）～上信越道（小諸IC）～マンズワイン工場見学～小諸草笛（昼食）懐古園散策（紅葉）～岩谷観音（丸子町）～鹿教湯温泉「鹿鳴荘」（16：40）



2日目 「鹿鳴荘」（9：00）～「信州の鎌倉塩田平」生島足島神社～別所温泉北向観音、安楽寺、常楽寺～前山寺～龍光院（昼食山菜膳）～上信越道（東部湯の丸IC）～関越道經由

圏央道(川島IC)〜大宮駅西口大宮
ソニックビル前(16:45)

担当理事 金子誠



☆ スポーツ

◎ ゴルフ同好会

恒例の春季親睦ゴルフ大会は4月7日、富貴GCで開催され、参加者610名でした。

プライベートハンディ方式でプレイした結果、優勝：萩原啓治氏、準優勝：堀内 政氏、三位：半田喜章氏で、ベスグロ賞は堀内 政氏でグロス86でした。

また6月18日には取手国際GCに於いて8名参加のミニコンペを開催

2009.4.7 富貴 GC にて



しました。優勝はAクラス飯島慶三郎、Bクラス武捨衛人の両氏でした。

2009.6.18 取手国際CCにて



秋季親睦ゴルフ大会は11月10日、好天に恵まれた富貴GCで開催。参加者は10名で、優勝：椎名己津男、準優勝：武捨衛人、3位：堀内

2009.11.10 富貴 GC にて



政、ベスグロ：堀内 政の各氏でした。担当理事 堀内 政、萩原啓治

2009.4.7 富貴 GC、タラレバのひと時



~~2008.5.18 春季MG大会~~

2009.10.10 秋季MG大会



春の大会は降雨のため中止、秋の

◎ マレットゴルフ

大会は10月10日、7人(男性4、女性3)の参加を得ていつもの新座のマレットゴルフ場で開催、優勝：布施京子さん、準優勝：鈴木邦子さんでした。担当理事 萩原啓治

2009.10.10 秋季MG大会



はなやう

「ナー」

1

【県大会で金賞受賞】

東海大会で【銅賞受賞】
真田中学校吹奏楽部

「ダッシュ」何事も本気で全力疾走」は吹奏楽部が大切にしている目標。この目標の下でがんばり県大会では金賞を受賞、先輩たちから引き継がれた夢「東海大会に出場」を果たすことができました。「これから五一人全員でダッシュし続けたい」と言う、元気な吹奏楽部です。(34頁に写真掲載)

2

【優勝！真田中野球部】

真田中学校野球部が県中学校総合体育大会で初優勝を飾りました。部員たちは「全中出場、優勝」という高い目標を掲げ、得点力を高める練習を工夫して行なってきたそうです。大会では1点差で逃げ切ったり、逆転勝利を掴んだりして決勝戦に臨み、飯田の高陵中を9・2のスコアで下して見事優勝を飾りました。新潟市で行なわれた北信越大会では福井南越中と対戦。延長戦の末2・3で惜しくも敗れましたが、顧問の小林先生は「全中優勝を目標にやってきましたが、野球を通して人格

形成を図る事も大きな目標でした。保護者や地域の方の支援が有ってこそその結果。今後も地域に愛される部を目指したいです。」と話されています。(34頁に写真掲載)

(以上の記事は地域自治センターだより **さなだ** から転載—ふるさとの後輩、がんばっています。)

3 ふるさとの人達 その1

堀内 年治さん(83)

(大倉出身・上田市中央西在住)

堀内年治さんは上田市真田町傍陽の山中で檜と杉の植林を34年間に亘って一人で進めている。父が残した山を守る為に50歳までは資金を蓄え、その後は木を植える。70年近く前に心に決めたことを実践している。「植えた木が育って材木になり、やがて人の役に立つと思うと楽しみで仕方ない」。命ある限り山仕事を続けようと思っている。(今年6月5日の信濃毎日新聞より)

そしてこの記事欄に使われた小見出しは『父の山』守り植林活動』83歳男性 少年の日の誓い実践』49歳から1万2千本「命ある限り続けたい」

また、山仕事の喜びと自分の人生を伝えようと2冊の本

【山里に生まれて山に生きる】

【山に生かされて】

を昨年、今年と自費出版されました。青年時代の昭和27年には、傍陽連合青年団長として活躍され、現在は社会奉仕に努められ、ユニセフや出身地の道路、神社に半端ではない金額の寄付をされていることをご紹介しておきたいと思います。

(34頁に写真掲載)

4 ふるさとの人達 その2

清水 義博さん(74)

(神科村出身・上田市常入在住)

農民美術家で、今年

【信州上田・農村スケッチ

やさしい風景がよみがえる時】

を 梨の木舎より出版されました。たまたま友人からプレゼントされて頁を繰ったトタン、60年タイムスリップして、幼い日のふるさとの光景の中にいる錯覚に捕らわれました。まさに副タイトルそのものの 信州上田・農村スケッチ が目に飛び込んできたのです。

奇しくも清水 義博さんと私(武捨)は小泉蚕業高校の同期生で、染谷から徒歩通学されていた、小柄で目が細く声が優しい文字どりの「紅顔の美少年」だった清水さんを懐かしく思い出しました。(34頁に作品紹介の写真掲載)

(16頁四段目最終行からつづく)

カリ性条件、あるいは、私たちの身体が簡単に焼肉になってしまいうような高温条件や、強烈な高圧条件などがうまく組み合わせられて初めて可能になるそうです。

最近ではこの謎にたいして、発現初期の生命体は機能分化が不十分なものだとして「状態にあり、不十分ながら酵素機能を持った核酸が存在したのではないかと考えられているようです。」—丁度極端に人材不足の超小企業の社長のように、ひとりですべてをやったのける…

☆ 生命の営みの縁の下での力持ち、酵素—この優れたもののたんぱく質がなくては生命活動は維持出来ない。

☆ 原始生命体はどのように誕生し、そしてどう展開したのか

— 化学進化 ↓ 生命の起源

↓ RNAワールド ↓ DNAワールド「ウイルス」

↓ DNAワールド「単細胞生物(原核細胞[真正細菌(ミトコンドリア、葉緑体など)]、(古細菌(動物、植物、菌類の祖先))」

↓「真核細胞(ハプロイド) ↓ ディプロイド ミトコンドリア、葉緑体の共生」 ↓ 「多細胞生物」 ↓ ↓ ↓ 人類、牛、

鹿など…余談ですが牛、鹿などは最も進化した仲間、人間もひず

め、胃の構造などで哺乳類としては彼らより遅れていると言っ見方もあるようです。」

☆ 活動能力の図抜けた、猛毒の酸素を喰った好気性細菌とミトコンドリアー全生命体のエネルギー通貨のA.T.P.を不眠不休で20〜30億年にわたって作り続けています。

☆ 地球環境を一変させ今日の地球の礎を築いた、生命体のエネルギー源と酸素の生産者―シアノバクテリアと葉緑体―太陽光線と水と炭酸ガスからすべての生命体のエネルギー源と命綱の酸素を作り出し続けて30億年です。

☆ 卓越した知的生命体と言われている人類が、人智の限りを尽くしても生命の営みのすべてを人工的に創り出すことは不可能―この広大な時空の片隅で稀有な生命に恵まれた我々の果たすべき義務は、天賦の能力で子孫を残し、この宇宙の比類なき傑作であるヒトDNAを永遠に受け継いで行く壮大なドラマの一翼を担うことではないでしょうか？

☆ わずか500万年の、見方を変えればたった5、000年の進化で、137億年の宇宙成立のなぞに迫った宇宙最大の知的生命体の

能力を以ってしても、宇宙のメカニズムは余りにも絶妙精緻で筋書きを書くなど及びもつかず、といって偶然の成り行きの結果とはとても信じられません。

宇宙の成立と地球生命体出現の筋書きはいったい誰が書いたのでしょうか？ そして宇宙最大の知的生命体の叡智は、その真相をどこまで解き明かすことが出来るのでしょうか？ 誕生するのが早すぎたとは思いませんが、せめて長生きをして謎解きの成果を楽しみたいものです。かのアメリカでは80%もの人達がわずか6、000年前にこの世を創生したと言う神の存在を信じ、地域によつては義務教育のカリキュラムから宇宙論や生物進化論の排除を決めたとか…果たして人類は宇宙最高の知的生命体なのでしょうか？ (神の存在を信じるのは宗教の世界のことで心の問題なので全く自由と思います。観測事実との整合性をベースに森羅万象の実態説明を進める科学の基礎教育の場に宗教の立場が反映されるようでは宇宙最高の知的生命体の称号には値しないと考えるのは私だけでしょうか？…未完。)

(木「ウッド」そして「気」と金「アイアン」そして「お金」を使い、体を使ってゴルフを楽しみ、人生を楽しむ…生命ある限り、そんな中で科学について学び思索する意欲を維持したいと考えています。)

会員の皆様の 近況報告抜粋

(出身区・旧姓)

1 青木 進(横尾)

週二日の仕事や家庭菜園等を楽しみながら過ごしています。真田町の会の益々の隆盛を祈念しています。(総会には他の用事が入り欠席させていただきます。)

2 浅水みち子(入野井沢・山宮)

真田幸村ウォークというのが上田であるのですが、人気投票で一位と一つことで、お友達にも言われてとても嬉しいです。又真田幸村ウォークに参加したいと思っています。

3 我孫子てる子(真田・宮下)

カラダのグアイが良くないので欠席させていただきます。

4 飯嶋宏俊(中組)

体調不良の為脱会いたします。

5 井上かつよ(田中・堀内)

すっかり葉桜になりました。役員の皆様御苦労様です。なつかしい方々にお会いできるのを楽しみに出席させていただきますので宜しくお願い致します。

6 岩井泰子(中原・荻原)

新緑の美しい季節となりました。「しらかば通信」を送っていただき有難うございました。役員の皆様には大変お世話になり本当にありがたく感謝して居ります。

今年も又「真田町の会」喜んで出

席させていただきますと思います。

私の原点は故郷真田町です。いつも暖かく迎えてくれる周りの人達、そして美しい自然を宝物だと思います。

7 上ノ山勝信(三島平・堀内)

今回は高校の同級会と重なりましたので失礼致します。

8 内海辰三(大庭)

盛会を祈ります。私は元気で暮らして居りますが、当日は都合が悪く欠席致します。

9 内海宏光(大庭)

傍陽小学校の校庭を囲む桜も満開となりました。小学一年生もやうやく学校に慣れてきたのか、昼前に先生に送られ下校する際は、遠くから大きな話し声が聞こえます。我が家の前に出て迎えると「こんにちは」と立派に挨拶できます。大庭部落の顔見知りの子供に「お母さんが宮の前に迎えに来ているよ」と声をかけると背伸びして母の姿を確かめてにっこり微笑んでおります。

10 大井啓二(真田)

いつもお世話様に成ります。今回は欠席ですが今後ともよろしくおねがいします。

11 大橋けさ子(菅平・山本)

楽しみにしておりましたが、行事が重なってしまい残念ですが欠席します。

12 岡村ちそ江(中横道・堀内)

脱会させていただきます。大変お世話になりました。

13 荻原 學(真田)

故郷真田町の様々なニュースを報

じていただき、役員皆様の御尽力に感謝です。総会欠席 お許し下さい。

14 荻原勇一(六沢)

今回をもって退会します。有難うございました。

15 神田幸雄(横尾)

「初出席です。よろしく願います。」山口元彦さんの同級生です。4月中旬、約30年ぶりに会う機会があり、この時に「東京真田町の会」の話を聞き、参加してみたいと思っておりました。「会」について無知ですがよろしく。

16 神林公三郎(竹室)

この度高齢のため意の如くならず、やむをえず退会させて頂きます。長いこと皆様方の「厚誼を賜りまして有難く厚く御礼を申し上げます。真田町の会、益々の御発展を心からお祈り申し上げます。

17 鎌田たけ子(二島平・坂口)

主人の一周忌も過ぎ、出席させて頂きたいと存じております。宜しくお願い申し上げます。

18 倉島冬朝(二角間)

役員の皆様には大変お世話様になっております。今年も楽しみに参加させて頂きます。

19 倉持信郎(入軽井沢・小林)

不況の中、私の家庭も大変な状況です。長男の働く物流関係の仕事は、土浦では毎日の作業量はなく京浜方面に出向する有様です。孫達も3年55年程で大学も終わりますので、私もサポートする事となりアルバイトに精を出しています。

20 小平京子(下横道・坂口)

お知らせ有難うございます。都合で出席できませんが皆様によりよくお願い致します。

21 小林勝美(入軽井沢)

家族旅行のため申し訳ありませんが欠席させて頂きます。

22 小林公江(大日向・塩沢)

役員の皆様のお世話になりました。チューリップを初め色々な草花が咲き、その花々にパワーをもらっています。一年は早いですね。皆様にお逢い出来ますのを楽しみにしております。

23 小林治雄(入軽井沢)

しらかば通信有難うございました。実は主人、昨年7月永眠致しました。何時も会に出席することを楽しみにしており残念です。生前中の感謝と共にこれからの会の発展を心よりお祈りいたします。どうぞ会員の皆様によりよくお伝え下さい。小林禮子

24 小林正子(下横道・堀内)

皆様お元気でいらつしゃいますか?。この度は親戚でお祝い事があり欠席させて頂きます。「盛会をお祈りいたしております。皆様によりよくお伝え下さい。

25 桜井和子(下横道・中沢)

元気で過ごしています。5月24日は靖国神社でのお茶会で友人たちと出席の予定になっていますので残念ですが欠席します。

26 笹沢けさむ(横沢・久保)

理事、役員の皆様、いつもいろいろ

のしらかば通信ありがとうございます。又何かと企画を御苦労様です。体調不良の為総会には行かれませんが。宜しくお祈りします。東京真田町の会が益々発展されることを祈念します。

27 佐藤久司(萩・三井)

何時もお世話になって居ります。タボス・しらかば通信をなつかしいっぱいで読ませて頂いています。連絡。会費おそくなり申し訳御座います。今後とも宜しく御願致します。

28 佐藤ふネ子(真田・矢島)

役員の皆様口頃は大変お世話になっております。健康美スクールに通って元気です。今回も参加できず残念に思っております。東京真田町の会の益々の発展をお祈りします。

29 佐藤輪子(下横道・坂口)

体の調子が悪いので欠席させて頂きます。いつもお世話様です。

30 椎名三津男(横沢・山口)

ありがとございます。楽しみに参加させていただきたいと思っております。よろしく御願致します。

31 塩沢英己(大日向)

会報をお送り頂き、感謝しております。2年前に東京の友人の農業体験(ソバの栽培等)などの縁で、真田町に少しばかり景観の良い既存住宅を授かりました。仕事の合間に時折訪れて、真田の郷の良さを「体感」しております。東京真田町の会の発展を願っております。

32 清水甫子(田中・金沢)

出席させて頂きます。皆様にお逢い出来る事、たのしみに行っていますのでよろしく御願致します。役員、幹事の皆様大変御苦労様です。

33 清水清晴(中横道)

何日か忘れましたが山口弁護先生のお便りで「神仏の加護により」との言葉を思い出し、私も皆様のお陰とともに86歳となり創立以来お世話になっていきます。よろしくお祈りします。会費と広告料金は後日お送りします。

34 渋谷若三(横尾)

「案内ありがと」でございます。毎度のことながら、病後の後遺症で歩行困難ですので、欠席させて頂きます。皆様の健康を祈ります。

35 鈴木郁夫(横尾)

昨年末より、和人形「からくり市松人形」を製作、発表しました。

36 鈴木邦子(横尾)

年に一回の総会に皆さんとの出会いを楽しみにしております。出来るだけ多くの方とお会いできたらいいなとわくわくしております。

37 鈴木民子(竹室・高寺)

桜も散り葉桜の美しい季節になりました。総会の準備、大変な事だと思います。昨年は出席出来ませんでした。今年も出席させていただきたくので、楽しみにして居ります。よろしく御願致します。

38 杉崎寿三男(菅平)

所用により欠席となります。皆々

様によりしくお伝え下さい。益々の御発展をお祈り申し上げます。

39 杉崎博明(菅平)

体調が優れず退会させて頂きます。長き間、皆様方の笑顔、故郷の情報「しらかば通信」「日本ダボス」等で知る事が出来ました。本当にありがとうございました。

40 関谷トミ子(戸沢)

第22回総会の開催おめでとうございます。欠席で申し訳ございません。医者から体調をととのえる為、歩行訓練をするように云われております。来年は出席出来るように努力いたします。「盛会を」祈念申し上げます。

41 滝澤重忠子(下横道・半田)

ふる里はよいものです。ダボスたのしみに拝見しております。出席できませんが、皆様の「健康」と「活躍」をお祈りします。

42 田中静江(大庭・内海)

時の過ぎるのが早く心の中は日々忙しさを感じております。役員の皆様お忙しい中、お知らせやダボスを送付頂き有難うございます。年に一度若かりし頃の自分と出会える楽しいひと時でしたが、今回を最後に退会をさせて頂きたいと思っております。ほんとうに長い間お世話に成りました。会のご発展と皆様の「健康」を心より祈念申し上げます。真田町にもありがとう。

43 田中恒夫(横尾)

皆様大変御苦労様です。元気でい

ますが、都合が悪く、欠席させて頂きます。皆様によりしくお伝え下さい。

44 田中英徳(上郷沢)

今回で脱退しますのでよりしくお願い致します。

45 谷口文枝(横尾・北沢)

退会届 大変お世話になりました。体調がすくねず脱会をさせて頂きます。真田町の会です。またのご発展と皆様の「健康」をお祈り致しております。本当にありがとうございました。

46 塚田加代子(横尾・宮崎)

「日本ダボス」「しらかば通信」ふるさとからの便りがとても楽しみです。総会にはなかなか参加できませんが。

47 塚田 靖(菅平)

未だ現役の演奏家として活動しています。先日(4月4日)定期演奏会とCD作りをしました。(現73歳)

48 所 けさい(中横道・堀内)

会報懐かしく読ませて頂いております。最近、学研の漢字源という分厚い辞書の中に、難読として、出身地「傍陽そえひ」の文字を見つけました。感動のあまり、早速周囲の人達に宣伝いたしました。

49 中沢欣勇(下横道)

役員の方々誠に御苦労様です。早くも又総会を迎える頃となり、一年の速さに驚きです。懐かしき傍陽の風景を胸に毎日頑張っております。

50 中村洋子(田中・木下)

役員の皆様いつも有難うございます。初めて息子(三男)と一人で泊三日の旅(ツアー)をしてきました。(山陰 桜は満開、お天気は良く楽しかったが、疲れました。帰りは荷物を息子が持ってくれました。年はとっても元気でいたいと思つ今日です。真田町の会も一つ一つづきまますように…

51 並木千枝(下横道・坂口)

足が弱くなり出席できませんので退会させて頂いたできます。永年、お世話になりました。

52 野村勝太郎(電子(秋・橋詰)

大変残念ですが出席できません。今回で欠席は2回目だと思います。

53 野村勝太郎(電子(秋・橋詰)

当日、小生が部長をしている少年野球部の親子大会と重なりまして、申し訳ありません、皆様に宜しく。当日、小生は200食位の焼きそば作りを毎年して居りますので、がんばらねばです。

54 橋詰吉雄(中組)

日本ダボスによるふるさとの風景、毎回楽しく拝見しております。総会と懇親会も年中行事の予定表には欠かせないものになっております。再会を楽しみにしております。

55 半田喜章(中横道)

残念ですが今年も又他の行事とバツティングしてしまい、参加出来ず申し訳ありません。「盛会」をお祈り致します。

56 半田幸一(田中)

幹事の皆様御苦労様です。やっと出席出来楽しみにして居ります。日常は毎日の様に医者通いで忙しい程で、何とか独り暮らしの侘しさを凌いで居ります。

57 花岡孝雄(横尾)

弟の件よりしくお願い致します。

58 花岡孝雄(横尾)

初めてですが楽しみにしております。尚、会費は当日お支払いします。

59 久野けさ志(中横道)

何時も役員の皆様、お世話に成り誠に有難うございます。今回は用事が出来欠席致します。出席の皆様によりしくお伝え下さい。

60 藤井やすい(下横道・内川)

仕事になつてしまったので欠席させて頂いたできます。

61 古澤啓子(曲尾・関口)

関係者の皆様、いつも大変お世話に成つて居ります。毎年欠席ばかりで迷惑をお掛けしていますので、誠に申し訳ありませんが、今年度にて退会させて頂きたいと思っております。今後の真田町の会の発展と皆様の健康をお祈り致します。本当に有難うございました。

62 堀井けさ子(田中・堀内)

良い季節になりましたね。いつも「苦労様」です。都合がつかず出席できませんのでよりしくお願い致します。

62 堀内照美(上横道)

第22回総会と懇親会の「盛会を心よりお慶び申し上げます。

おとお…ついに実現しましたね…懇談会費7千円・残念ながら、当日は勤務先地元のお祭りの為、欠席させて頂きます。(専用ブースも用意されている為)

63 堀内寅次(中横道)

「返事が送れて申し訳ありません。出席予定でしたが、急用で上田に行くことになりましたので、」盛会をお祈り申し上げます、

64 堀内寿美(上横道)

いつも「苦勞様です。宜しくお願います」

65 堀内秀夫(下横道)

孫が5年生になり一緒に買物に行きました。親がはれたら困ると心配しましたが、私の車椅子を楽しく押してくれ、親は安心、私は喜びいっぱい、楽しい買物が出来ました。先月狭心症の検査で入院し、腕にフルネームの腕輪をつけられ、子供の生まれた時を思い出し、笑っていました。結果異常なし、良かったです。

歩くのが大変なので今年是不参加とさせて頂きますが、会の発展と皆様のご健康を祈ります。

66 堀内幹本(上横道)

いつも欠席ばかりで申し訳ありません。皆様に宜しくお伝え下さい。

67 堀内 幸(下横道)

日頃の「配慮ありがたう」ございます。総会には出席し、皆様とお逢いするのを楽しみにしています。

68 松井志(江・秋・柳澤)

残念乍ら都合がつかませんので欠席致します。皆様に宜しく御伝え下さいませ。

69 松井雅子(中横道・堀内)

「連絡いつも有難うございます。いつも出席出来ず申し訳ありません。高齢者の仲間に入りましたが、人々の幸せを願う活動に頑張っています。失礼します。」

70 丸山廣義(横尾)

町内会の役員をして居ります関係で会が重複してしまい欠席させて頂きます。皆様とお逢い出来ず誠に残念です。御盛会をお祈り致しますと共に出席の皆様のご健康をお祈り申し上げます。

71 二井 毅(大庭)

「ぶさたしております。」盛会でありますよう祈念しております。

72 二井 周(大庭)

今年は3月23日傍陽小学校同級会、上山田温泉で。翌日実家大庭に行き墓参一泊。

4月10日、息子、孫達と上田城公園桜祭りに、晴天、満開の素晴らしい花見が出来ました。翌日は高砂殿での結婚披露宴(実家の孫娘の嫁入り)に。東京で信州・上田・真田幸村の自慢話をしています。

73 二井芳郎(大庭)

元気にしております。5月24日、大勢の皆さんにお会い出来るのを楽しみにしています。

74 宮崎十人重(菅平)

いつも御世話様です。よろしくお願い致します。

75 宮崎誠司(中原)

去る1月に脱会の届をしておりまして「確認下さい。会の発足以来大変お世話様でしたがよろしくお願ひ申し上げます。」

76 宮沢達人(番匠)

他の予定と重複のため欠席します。

77 宮下毅士(真田)

連絡遅れて済みません。今回も欠席です。孫達と一緒に生活するようになって一年半。畑の野菜づくりなどで楽しんでいきます。

78 宮本 優(大田回)

早いうちに旅行の計画をしておきましたので、今回は欠席になってしまいました。皆様の御健勝をお祈りします。

79 森田文子(下原・坂口)

諸事情により退会します。よろしくお願ひします。

80 森本幹生(入軽井沢)

昨年の真田町の展覧会におきましては色々有難うございました。皆様の健康と御多幸を心より願って居ます。盛会であります様に。

81 八木五郎(中横道)

3月31日で前社リストラ、4月1日より老人ホームの食事の仕事に変わりました。シフト制で土・日・祭は休まず「懐かしき皆様に逢えず残念ですが皆様くれぐれもお元気でね!!」

82 薬袋マチエ(大田回・堀内)

住所が変わりました。よろしくお願ひ致します。

83 矢島 収・栄(真田)

今回で退会させていただきます。お世話様でした。

84 安田美智子(入軽井沢・山宮)

生涯大27期の会の旅行と重なり欠席です。

85 柳沢郁政(戸沢)

古希を迎えましたが、在宅で仕事とソフトennisと、毎日元気でやっております。

86 柳澤 實(秋)

年一回の懇親会、ふる里真田町の温かい懷に抱かれし思いです。そこには既知の仲間の真田語が飛び交い互の健康を確認し合える喜びに浸る機会を与えて呉れる役員皆様に感謝。

87 柳澤義祝(秋)

お世話様になって居ります。御盛會を祈ります。

88 柳橋米子(下横道・内川)

主人病気の為残念です。楽しい会になりますよう。皆様お体おだいじに。

89 山口久子(曲尾・清水)

連絡有難うございます。なかなか

参加させて頂く事が出来ませんが、真田町の会の連絡、日本ダボスの小冊子等送って頂く事によって、真田町の様子や、先輩方、そして同級生の方々の様子等、少し分るので大変有難く思っております。

90 横沢武久(大畑)
4月19日上山田温泉で開催された本原中学の同級会に出席しました。

26名が集まり楽しいひと時を過ごすことが出来ました。今回の総会には所用のため欠席させて頂いたいただきます。今後ともよろしく願います。

91 横沢義雄(大畑)
残念ですが5月14日より孫の顔お見にドイツまで行つて来ますので出席出来ず、皆さんによろしくお伝え下さい。

92 吉川栄子(中組・武捨)
毎日、毎日楽しく過ごしております。

93 若林 豊(赤井)
今年には6回目の年男で「モーニング」にがんばっています。？当日は予定がありまして欠席します。申し訳ありません。

～会員消息～

(敬称略)

＜入会＞

神田 幸雄 〒194-0036 東京都町田市木曽東 1-30-18 (長・横尾)
花岡 孝雄 〒360-0015 埼玉県熊谷市肥塚 555-3 (長・横尾)
宮島 光男 〒244-0816 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町 2141-1 プライズヒル 6045 (長・横尾)

＜住所変更＞

半田 幸弘 〒167-0021 東京都杉並区井草 1-14-15 (傍陽・中横道)
田中 恒夫 〒240-0064 長野県上田市中央 2-24-25 (長・横尾)

＜退会＞

長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。

飯嶋 宏俊・岡村ちそ江・荻原 勇一・神林公三郎・杉崎 博明・田中 静江・田中 英徳
谷口 文枝・並木 千枝・古沢 啓子・堀内 保男・堀内 ふじ江・宮崎 斌司・森田 文子
矢島 収・矢島 栄

＜逝去＞

会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。

小林 治雄・横沢 正晃

＜転居先不明＞

尾崎 仲治

次回総会の予告

平成22年の総会、懇親会は5月23日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学公会館)で開催の予定です。大勢の会員の皆様のご出席を頂きますようお願い申し上げます。詳しくは4月に発行の「しらかば通信」第14号でお知らせいたします。

年会費納入のお願い

平成21年度の年会費千円を未納の方は、同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振り込み料は無料です。よろしくお願い致します。

広告御礼

日本ダボス第22号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、大勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

新会員ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠に有難うございます。会員相互の出会いと親睦、そしてふるさと真田町との交流の親密化を目的に誕生した東京真田町の会も、二二年余りの歴史を刻み先輩役員のご努力、会員の皆様のご協力、そして旧真田町並びに新生上田市当局のご支援により一人前の同郷会に成長しつつあり、ご同慶の至りでございます。

この東京真田町の会が更に充実し、発展し続けるためには会員の増加が何にもまして重要と思われれます。皆様の友人、知人の中に東京真田町の会の会員に推薦できる方が居られましたら、会長または役員まで是非ご一報頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

連絡先 中島 正江

〒158-0091 東京都世田谷区中町四一三五 一七 E
Tel. 03-3702-1385
Fax

平成20年度 決算報告書

平成20年4月1日～平成21年3月31日現在(単位:円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
通常年会費収入	650,000円	327,880円	総 会 費	1,300,000円	500,871円
総会懇親会費収入	1,300,000円	592,000円	会 報 発 行 費	500,000円	465,000円
上田市補助金	300,000円	300,000円	事 業 費	500,000円	83,000円
広 告 収 入	750,000円	235,000円	事 務 通 信 費	400,000円	174,906円
寄 付 金 等 収 入	150,000円	円	印 刷 費	150,000円	11,700円
利 息 等 雑 収 入	18,878円	308円	会 議 費	200,000円	105,880円
			渉 外 費	150,000円	17,360円
			交 通 費	100,000円	30,000円
			雑費・手数料	50,000円	21,990円
			予 備	150,000円	
当 期 収 入 合 計		1,455,188円	当 期 支 出 合 計		1,410,707円
前 年 繰 越 額	331,122円	331,122円	次 期 繰 越 額		375,603円
合 計	3,500,000円	1,786,310円	合 計	3,500,000円	1,786,310円

上記の通り収支決算報告いたします。平成21年3月13日 会 計 堀内 寿美 印

上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監 事 深町 共栄 印

監 事 堀内 幸 印

平成21年度事業計画

- ① 第22回総会及び懇親会の開催(平成21年5月24日)
- ② 会報「日本ダボス」第22号の発行
- ③ 広報紙「しらかば通信」の発行
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施
- ⑥ 真田地域との交流促進のため、ふるさと訪問、ふるさと特産品の宅配協力、各種文化・スポーツ行事の実施と参加
- ⑦ その他

平成21年度収支予算

平成21年4月1日～平成22年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
通常年会費収入	400,000	総会懇親会費	750,000
総会懇親会費収入	700,000	会 報 発 行 費	500,000
上田市補助金	300,000	事 業 費	300,000
広 告 収 入	400,000	事 務 通 信 費	200,000
寄 付 金 等 収 入	100,000	印 刷 費	50,000
利 息 等 雑 収 入	24,397	会 議 費	150,000
		渉 外 費	100,000
		交 通 費	100,000
		雑費・手数料	50,000
前年度繰越金	375,603	予 備 費	50,000
収 入 合 計	2,300,000	支 出 合 計	2,300,000

「東京真田町の会役員名簿」

(平成21年6月11日現在)

職 名	氏 名
会 長	中島正江
副 会 長	飯島慶三郎 山口元彦 柴田小夜子
理 事	監 事 深町共栄 堀内 幸
	事務局長 (山口副会長兼務)
	会計理事 堀内寿美
	荻原啓治 金子 誠 鈴木邦子 古市 礼子 堀内 政 武捨衛人
顧 問	小林孝雄 清水清晴 三井芳郎 塩沢和政

薄皮を剥ぐように思い出を誘う流行歌

・・・昭和21・2年・・・

山小舎の灯 近江俊郎

たそがれの灯は ほのかに点りて
なつかしき山小舎は 麓の小径よ
想い出の窓により 君を偲べば
風は過ぎし日の 歌おぼささやくよ

暮れゆくは白馬か 穂高はあかねよ
樺の木のはの白き 影も薄れゆく
寂しさに君呼べど わが声空しく
遙か谷間より こだまはかえり来る

リンゴの唄 東京の花売娘
かえり船 悲しき竹笛
啼くな小嶋よ 夜霧のブルース 港が
見える丘 夜のブラットホーム
長崎エレジー 夢淡き東京
とんがり帽子 懐かしのブルース
誰か夢なき 泪の乾杯

・・・昭和23・4年・・・

青い山脈 藤山一郎

若くあかるい 歌声に
雪崩は消える 花も咲く
青い山脈 雪割桜 空のはて
今日もわれらの 夢を呼ぶ

父も夢見た 母も見た
旅路のはての そのはての
青い山脈 みどりの谷へ 旅をゆく
若いわれらに 鐘が鳴る

異国の丘 流れの旅路
三百六十五夜 湯の町エレジー
憧れのハワイ航路 君待てども
月よりの使者 薔薇を召しませ
銀座カンカン娘 玄海ブルース
麗人草の歌 長崎の鐘
かりそめの恋 悲しき口笛

・・・昭和25・6年・・・

ニコライの鐘 藤山一郎

青い空さえ 小さな谷間
日暮れはこぼれる 涙の夕陽
姿変れど 変らぬ夢を
今日も歌うか 都の空に
あゝニコライの 鐘がなる

誰が読んだか 悲しい詩集
頁をひらけば 出て来た手紙
恋に破れた 乙女は今宵
何を祈るか 暮れ行く空に
あゝニコライの 鐘がなる

東京キッド 白い花の咲く頃
ダンスパーティの夜 山のかなた
越後獅子の唄 私は街の子
江の島エレジー 東京の椿姫
連絡船の唄 上海帰りのリル
ひばりの花売娘 高原の駅よさようなら
あの丘越えて あざみの歌
牧場の花嫁さん さすらいの旅路

・・・昭和27・8年・・・

泪の夜汽車 真木富士夫

暗いシートで 肩寄せ合うて
結ぶ仮寝は せつないものよ
恋のためなら 都の夢も
捨ててわびしい 故郷へ帰る
心もとない 泪の夜汽車

僕にや故郷も お前にや他国
たよりなかるよ 淋しかりうよ
夢で泣いてか 二筋三筋
白い寝顔に 流れる涙
つる夜嵐 泪の夜汽車

赤いランプの終列車 リンゴ追分
あこがれの郵便馬車 丘は花盛り
落葉しぐれ 街のサンドイッチマン
あゝモンテッパの夜は更けて
別れの磯千鳥 さすらいの船歌 この
世の花 待ちましょ 花の三度笠
雨降る街角 山のけむり 秘藻の歌

・・・昭和29・30年・・・

あの日の船はもう来ない 美空ひばり

あの日の船は もう来ない
帰るあてない 人なんか
待って波止場に 来たんじゃないさ
むかし馴染みの
鵜があたしの 友達なのさ

テープをどんなに つないでも
切れた縁を なんとしよう
みんな夢だと あきらめながら
風の便りを
そっと鵜に さいてるだけさ

哀愁日記 あなたと共に ひばりのマ
ドロスさん 高原列車は行く おんな
船頭唄 次男坊鴉 この世の花 別れ
の一本杉 高原の宿 親子船歌
小島通いの郵便船 かえりの港
月がとっても青いから
あの娘が泣いてる波止場

・・・昭和31・2年・・・

お月さん今晚は 藤島桓夫

こんな淋しい田舎の村で
若い心を燃やしてきたに
可愛いあの娘は俺らを見捨てて
都へ行っちゃった
リンゴ畑のお月さん今晚は
噂をきいたら教えておくれよなあ

祭ばやしを二人でさいて
語り明かしたあの夜が恋し
あの娘思えば俺らも何だか
泣きたくなっちゃった
リンゴ畑のお月さん今晚は
噂をきいたら教えておくれよなあ

哀愁の町に霧が降る 哀愁列車 東京の
人 好きだった 東京の人さようなら
夜霧の第二国道 俺はお前に弱いんだ
ここに幸あり 早く帰ってこ リンゴ村
から 柿の木坂の家 チャンチキおけさ
東京のバスガール 星空に両手を
港町十三番地 有楽町で逢いましょう

・・・昭和33・4年・・・

羽田発七時五十分 フランク永井

星も見えない空 淋しく眺め
待っていたけど 逢えない人よ
さよなら さよなら
俺を急かせる 最終便
ああ 羽田発七時五十分

忘れられない夢 見果てぬ夢を
捨てて旅立つ 心は暗い
さよなら さよなら
俺は涙を のせて行く
ああ 羽田発七時五十分

からたち日記
古城 東京ナイトクラブ
花笠道中 泣かないで
再会 南国土佐を後にして
お別れ衆衆電話

・・・昭和35・6年・・・

湖 愁 松島アキラ

悲しい恋の なきがらは
そっと流そう 泣かないで
かわいあの娘よ さようなら
たそがれせまる 湖の
水に浮かべる 木の葉舟

夕星一つ又一つ
ぬれた瞳を のばせる
思い出すまい なげくまい
東京は遠い あの峰を
越えてはるかな 空のはて

誰よりも君を愛す 再会
潮来花嫁さん 夜霧の空の終着港
潮来笠 月の法善寺横丁
北上夜曲 銀座の恋の物語
上を向いて歩こう はたちの詩集

・・・昭和37・8年・・・

長崎の女 春日八郎

恋の涙が 蘇鉄の花が
風にこぼれる 石畳
噂にすぎり ただ一人
尋ねあぐんだ 港町
ああ 長崎の 長崎の女

夢をまさぐる オランダ坂に
しのび泣くよな 夜が来る
忘れることが 幸せと
遠く囁く 鐘の音
ああ 長崎の 長崎の女

赤いハンカチ 江梨子 寒い朝
いつでも夢を 下町の太陽
島のブルース 高校三年生
美しい十代 こんにちは赤ちゃん
東京五輪音頭 夕陽の丘

・・・昭和39・40年・・・

ああ上野駅 井沢八郎

どこかに故郷の香りをのせて
 入る列車のなつかしさ
 上野は俺らの心の駅だ
 くじけちゃならない人生が
 あの日ここから始まった

就職列車にゆられて着いた
 遠いあの夜を思い出す
 上野は俺らの心の駅だ
 配達帰りの自転車を
 とめて聞いている国なまり

青春の城下町 東京の椿姫
 アンコ椿は恋の花 お座敷小唄
 東京の灯よいつまでも
 十七才は一度だけ 学生時代
 涙の連絡船 他人船

・・・昭和41・2年・・・

夜霧の慕情 石原裕次郎

愛しても 愛しても
 愛しきれない 君だった
 夜霧の中に
 泣いてかくれて 消えたまま
 帰らぬ面かげ ああ 涙の瞳

いつの日か いつの日か
 逢えるあてない 恋だけど
 せめても祈る
 君の幸せ そればかり
 夜霧にむせぶよ ああ 男の慕情

さよなら列車 夜霧よ今夜もありがとう
 小樽の人よ 逢いたくて逢いたくて
 恍惚のブルース ラブユー東京
 柳ヶ瀬ブルース こまっちゃう
 真赤な太陽 ブルーシャドウナ
 小指の想い出 お嫁においで

・・・昭和43・4年・・・

霧にむせぶ夜 黒木 憲

涙じゃないよと 言いたいけれど
 こらえてもこらえても まつ毛が濡れる
 君より切ない この俺なのさ
 だから笑顔が ほしいのに
 さよならが さよならが 霧にむせぶ夜

分ってくれたら なくのをやめて
 いつまでもいつまでも 待たせはしない
 君より淋しい この胸なのさ
 だからみじかい 旅なのに
 さよならが さよならが 霧にむせぶ夜

君がすべてさ 星影のワルツ
 港町・浜町・別れ町 長崎ブルース
 君は心の妻だから 好きになった人
 抱擁 ブルーライト・ヨコハマ 池袋の夜
 ゆうべの秘密 恋の季節 今日でお別れ
 港町ブルース 長崎は今日も雨だった

・・・昭和45・6年・・・

わたしの城下町 小柳ルミ子

格子戸を くぐりぬけ
 見あげる夕焼けの空に
 誰が歌うのか子守歌
 わたしの城下町
 好きだともいえずに
 歩く川のほとり
 往きかたうに
 なぜか目をふせながら
 心は燃えてゆく

橋のたもとにともる
 灯りのように
 ゆらゆらゆれる
 初恋のもどかしさ
 きまづく別れたの

夢は夜ひらく 知床旅情
 よこはま・たそがれ おふくろさん
 また逢う日まで

・・・昭和47・8年・・・

ふるさと 五木ひろし

祭りも近いと 汽笛が呼ぶが
 洗いざらしの Gパンひとつ
 白い花咲く 故郷が
 日暮れにや恋しく なるばかり

赤いネオンの 空見上げれば
 月の光りが はるかに遠い
 風に吹かれりゃ しみじみと
 思い出します 囲炉裏ばた
 あゝ誰にも 故郷がある 故郷がある

瀬戸の花嫁 恋の町札幌
 せんせい おまえに
 なみだ恋 くちなしの花
 四季の歌 なみだの操
 夜 空

・・・昭和49・50年～・・・

千曲川 五木ひろし

水の流れに 花びらを
 そっと浮かべて 泣いた人
 忘れな草に かえらぬ初恋を
 思い出させる 信濃の旅路よ

一人たどれば 草笛の
 音いる哀しき 千曲川
 よせるさざ波 くれゆく岸に
 里の灯ともる 信濃の旅路よ

二人でお酒を 北の宿から
 さだめ川 昔の名前で出ています
 襟裳岬 愛ひとすじ うそ
 シクラメンの香り 年下の男の子

編集後記

『日本ダボス第二十二号』を本日お届け致します。
 最初に貴重な原稿をお寄せいただいた皆様に心から
 御礼を申し上げます。

皆様に寄稿・投稿をお願いし続けて八年が経ちまし
 た。そして胃をはじめいろいろなものがない私のサン
 デー毎日の日々も間もなく十年、改めて健康に感謝す
 るしだいです。

古希を過ぎた頃からふるさと・信濃路を訪れる回数
 が目に見えて増えました。いつも空気のおいしさと花
 色の新鮮さに癒され、生まれ故郷の素晴らしさを再認
 識させられますが、父母や弟妹が健在の間にもっと頻
 繁に訪れておきたかったと後悔しています。往き来で
 きないあちらでは、たまには炬燵で皆そろってふるさ
 と言葉をお話ししながら、楽しくお茶でも飲んでい
 るうな、と想像して自分を慰めている次第です。

東京真田町の会は昭和六十三年九月に創立されまし
 たが、創立以来ずつと会の発展に尽力された会員の中
 から、高齢だからと退会される方が散見されるよう
 になりました。ほんとうに寂しいかぎりです。

末筆で恐縮致しますが、上田市議会事務局の市村
 誠様並びに真田地域自治センター、地域振興課の宮島
 剛様、お忙しい時期に格別なご協力を頂き大変有難
 う御座いました。厚く御礼申し上げます。

ふるさとを訪れるたびに、皆様の思い出に残る場所
 を求めてデジカメ写真を写し、日本ダボスに掲載して
 いますが、どうしても私の思いが入り、撮影場所が偏
 りがちです。皆様も是非ふるさとの写真をお寄せいた
 だきたいとお見ます。ふるさとの風景写真は会員の皆
 様に大変歓迎されておりますので宜しくお願い致しま
 す。原稿集めにご協力頂いた理事の皆さん、編集スタ
 ップの皆さん大変お世話になりました。(武捨記)

祝 東京真田町の会

—会報22号—



ブラザ店のご案内

URL : <http://www.rogovski.co.jp/>
E-mail : rogovski@rogovski.co.jp

副社長 調理部長 長屋京子

セントラル キッチン 東京都世田谷区弦巻5-14-25
03(3428)7284 FAX03(3426)4466
自宅: 03(3428)4194

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では
眼下に渋谷の街並みが広がります。

20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。

室料(貸切り料)、サービス料
いっさい無し

AM11:00~PM10:00 (ラストオーダーPM9:30) 年中無休

PHONE 03(3463)3665
渋谷駅南口バスターミナル前
渋谷東急プラザ9F・味の名店街



TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,
and excitements more wonderful and much greater

"発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく"

- Mr. Children
- ケツメイシ
- BUMP OF CHICKEN
- RAG FAIR
- ゆず
- melody.

株式会社 トイズファクトリー 代表取締役 井出 孝光

人と地球に思いやりある環境づくりを目指して

資源愛護と環境保全は企業の責任

一般貨物運送事業、リサイクル推進事業、一般・産業廃棄物収集運搬

ISO9001・ISO14001 認証取得

H14環境保全功労環境大臣賞受章

東京都知事賞 受賞・板橋区環境保全優良事業所

みすゞ興業株式会社

代表取締役 荒木 廣之 (真田町下原出身)

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2-10-7 TEL 03(3966)2422 FAX 03(3966)2423

自宅 TEL 03(3965)4692

祝 東京真田町の会 —会報22号—

土地・建物・測量・登記 飯嶋測量事務所 土地・家屋調査士 飯嶋義道 土地・家屋調査士 飯嶋義幸 (中組出身) 〒230-0072 神奈川県横浜市鶴見区梶山 2-38-11 ☎ 045-581-0324 FAX 045-571-8432	貿易物流研究所所長 東京真田町の会 顧問 小林孝雄 (曲尾出身) 〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5 ☎ 045-843-8041
齋藤指圧治療院 齋藤勇一 (真田出身) 〒156-0043 東京都世田谷区松原 5-56-10 シャポール東松原 301号 ☎ 03-3322-6622	東京真田町の会 顧問 塩沢和政 (大日向出身) 〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田 1074-37 ☎ 047-450-3348
東京六二会戦友会会計理事 東京真田町の会 顧問 清水清晴 (中横道出身) 〒201-0002 東京都狛江市東野川 3-12-2 ☎・FAX 03-3489-0763	オートマタ(西洋からくり)製造・販売 いくさ工房 鈴木郁夫(横尾出身) 〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷 4-13-7 ☎・FAX: 048-864-0295, mail: s-ikusa@dab.hi-ho.ne.jp http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ikusa/
新鮮青果.com 代表者 中島偉充 Yorimitsu Nakajima 〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E ☎・FAX 03-3704-7875 E-mail: info@shinsenseika.com URL: http://www.shinsenseika.com	東京海上日動火災保険株式会社 代理店 東京海上日動あんしん生命保険株式会社 代理店 堀内インシュアランスサービス 代表 堀内寅次 〒337-0032 さいたま市見沼区東新井 939-64 ☎ 048-685-5282 FAX 048-687-9122 携帯 090-1120-4058 http://www.tokio_nichido.com
東京真田町の会 顧問 三井芳郎 〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 11510 ☎ 0268-73-2616	国画水墨院常任理事 (元)日本選抜美術家協会常任理事審査員 国画院会員、師範 森本幹生 (入軽井沢出身) 〒211-0062 川崎市中区小杉陣屋町 1-6-8 ☎ 044-733-0267
御殿場市・小山町 長野県人会 顧問 柳沢喜三郎 (萩出身) 〒412-0045 静岡県御殿場市川島田 748-2 ☎ 0550-83-0081	御芳志御礼 会報誌「日本ダボス」発行資金として下記の 役員の皆様より各一万円の御芳志を頂戴致し ました。 中島正江様 飯島慶三郎様 山口元彦様 柴田小夜子様 堀内寿美様 深町共栄様 堀内幸様 荻原啓治様 金子誠様 鈴木邦子様 古市礼子様 武捨衛人様

㊦ 東京真田町の会 —会報22号—

社団法人 日本証券アナリスト協会 主催

個人投資家向け会社説明会を 定期的に開催しています！

当協会では、個人の資本市場参入促進への取り組みの一環として、個人投資家向け会社説明会を定期的に開催しています。上場企業の経営陣から事業内容や経営方針、業績見通し等を直接聞くことができる絶好の機会です。是非ご参加ください。

1. 開催日程

	日 程	開催予定 社数
第13回	平成22年2月：7日間 4日(木), 5日(金), 6日(土), 8日(月), 9日(火), 18日(木), 19日(金)	21社
第14回	平成22年3月：7日間 11日(木), 12日(金), 13日(土), 15日(月), 16日(火), 24日(水), 25日(木)	21社

2. 会場 当協会第1セミナールーム
(東京証券取引所ビル6F)
3. 参加募集人員 先着200名(参加費無料)
4. 開催時間帯 13:00、14:05、15:10 から
各50分間(1日3社開催)

申込方法等の詳細は、各回開催日の約1カ月前に
当協会ホームページ (<http://www.saa.or.jp>) に
掲載いたします。



お問い合わせ先



社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1 (東京証券取引所ビル5階)

TEL: 03-3666-1632 FAX: 03-3666-6610

E-mail: i-kaisai@saa.or.jp

ホームページ: <http://www.saa.or.jp>

当協会では個人の資本市場への参入を推進しています。

ふるさとのおちろこちろ

写真撮影：編集部 武捨 衛人





ストックホルムの小学校…14頁に関連記事



11 頁に関連記事



柳澤 實さんと柏文化財ゼミの仲間
9 頁に関連記事



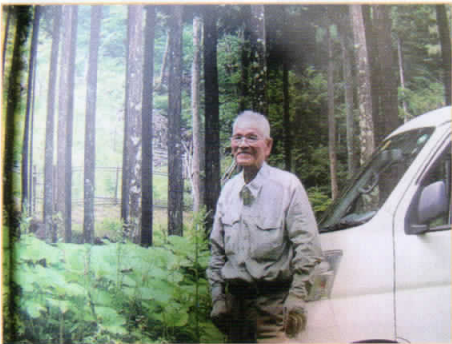
21 頁に関連記事



オーロラ2…14 頁に関連記事



オーロラ1…14 頁に関連記事



83 歳には見えない堀内年治さん…21 頁
に関連記事



21 頁に関連記事



21 頁に関連記事



60 年タイムスリップして幼時のふるさとへ…21 頁に関連記事



21 頁に関連記事

・・・・・・・・・・ 投稿・寄稿のお願い ・・・・・・・・・・

日本ダボス 23 号・しらかば通信 14 号への投稿・寄稿をお待ちしております。感想文・紀行文・思
い出・近況など、日本ダボスは 2,400 字以内、しらかば通信は 800 字以内で、ご連絡は次の担当理事
までお願いします。

広報担当理事 武捨 衛人

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405

Tel & Fax : 04-2949-4776 mail:m-musya@nifty.com

祝 東京真田町の会 —会報22号—

IMPERIAL HORIUCHI

株式会社 真田不動産

株式会社真田不動産は創業25年、東京都内を中心に独自のネットワークによる不動産物件の買い付けおよび販売、不動産競売による入札(仕入れ、販売)業務を展開し、「中古住宅再生事業」を主たる業務としております。さらに自社所有物件、IMPERIAL(インペリアル)/壱～五番館は斬新で人気の全65室を所有しております。



本社 (インペリアル壱番館・貳番館)

会社概要

商号	株式会社 真田不動産
設立	昭和63年9月28日
所在地	〒120-0005 東京都足立区綾瀬6丁目30番8号
登録番号	東京都知事(1)第87786号
電話	03-3620-2511
FAX	03-3620-2744
ホームページ	http://www.sanada-fudosan.com/
代表者	取締役社長 堀内 政
事業内容	不動産の売買並びに収益物件の賃貸・管理(自社所有)
資本金	10,000,000 円
取引金融機関	三井住友銀行、城北信用金庫、茨城銀行、滝野川信用金庫



(壱番館屋上庭園)



(真田 / 勝どきビルを望む)



(真田家伝来甲冑 / 当社所蔵)

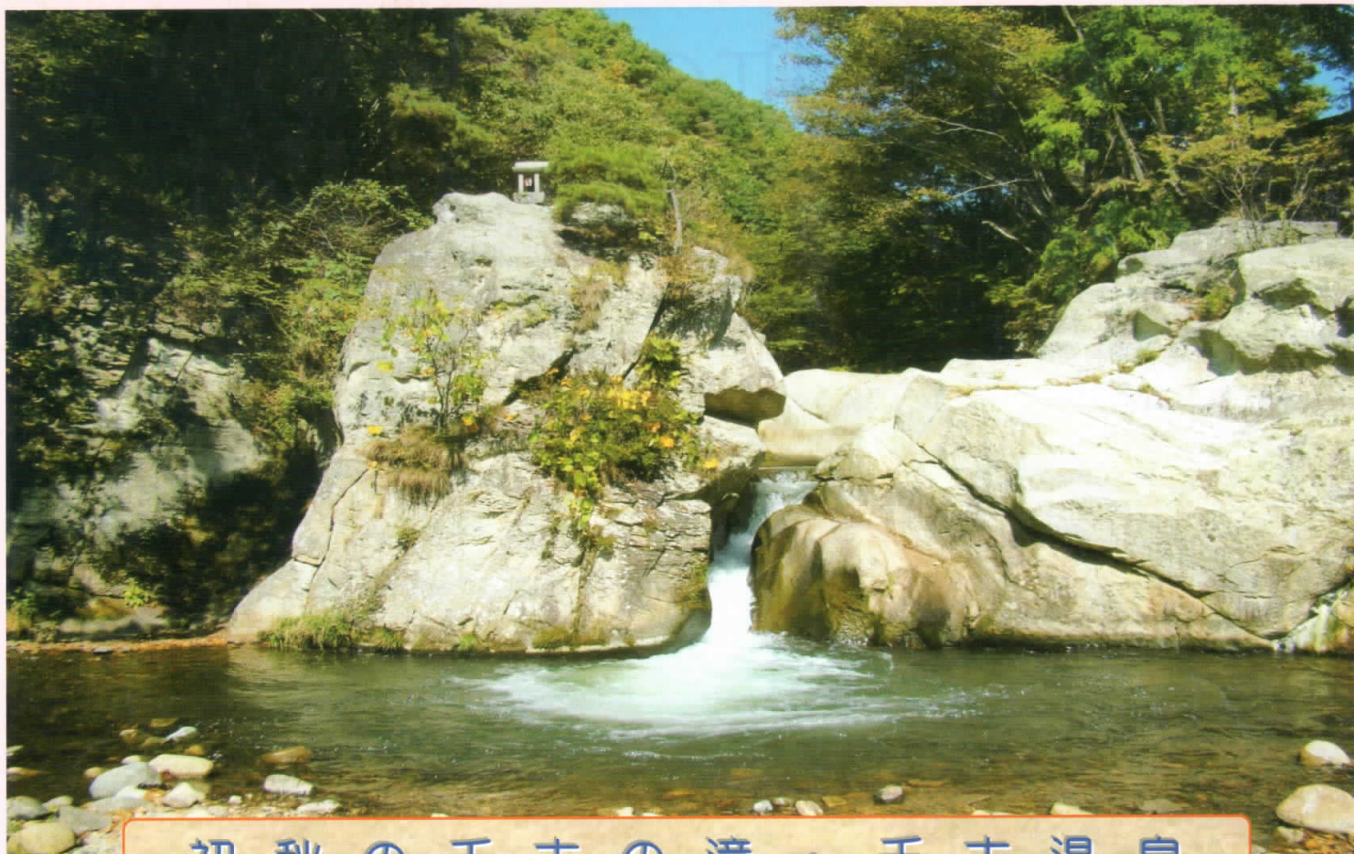
プロフィール

当社、代表取締役 堀内 政は生まれ故郷(長野県上田市真田町)信濃路を後に単身上京、乍らアパレル関係に従事。10年後、紳士服販売(和光)として独立を果たし、その後、縁あり不動産業に参入しました。(沿革参照)

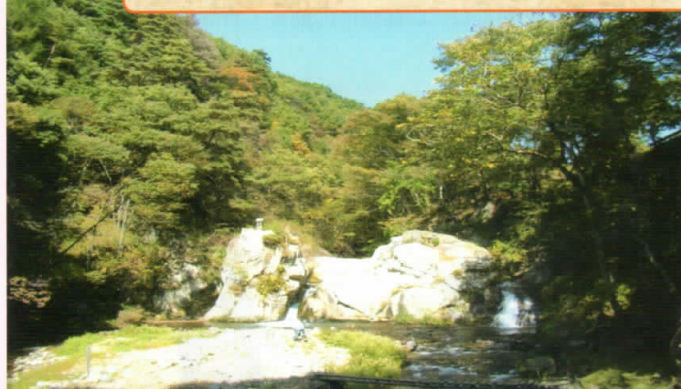
株式会社真田不動産の社名は、**六連銭**の家紋で戦国の世に於いて、智謀に優れ、又、**武功**に長けた**謀将**として名を馳せた真田幸村(信繁)の発祥地(上田市真田町)が同郷と云う事からの由来です。

営業方針

“小さくてもキラリと光る”営業指針を目指し、バランスシート(貸借対照表)を常に考慮の上、その時代の流れと不動産市況を柔軟に捉えながら、東京23区全域を網羅し、且つ、案件事に即断・即決で対応しています。営業販路は、業者販売とエンドユーザー向けと、各々半分位の割合で、フットワークよく精力的に活動を行っております。また、自社所有の収益物件を2～3期ごとに取得しており、**賃貸収入で企業収支**の安定化を計り営業展開を遂行しております。



初秋の千古の滝・千古温泉



日本ダボス

平成21年12月23日発行

(写真撮影 : 編集部 武捨 衛人)

発行

東京真田町の会 会長 中島 正江

〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E TEL・FAX 03-3702-1385

編集委員

武捨 衛人 鈴木 邦子 古市 礼子

印刷

上田市・(株)アオヤギ印刷